

條約局



司
法
省

昭和九年九月 参日 松受

司法部 秘第四一號

民事局 昭和九年九月一日

抄

司法次官 金山季逸



外務次官 重光

葵 殿

「俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年

七月二十七日ノ條約」御批准方奏請

ニ關スル件

本年八月十一日附條一機密合第三一四二號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件
ニ付テハ當省ニ關スル限御批准方奏請相成別段差支無之候條此段及回答
候也

(小紙B.105.11.20.7-1)

B-1403



秘

條約局

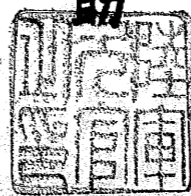
陸密第五二一號

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーブ」條約及俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約御批准方奏請ニ關スル件回答

昭和九年九月六日

陸軍次官 橋本虎之助

外務次官 重光葵殿



八月九日附條一機密合第三〇九一號照會ニ依ル首題ノ件中「戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーブ」條約」ニ關シテハ御批准方奏請ニ異存無之モ「俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約」

陸軍

ニ就テハ御批准奏請ヲ爲ササルヲ可トスル當省ノ意見ニ付可然取計ヒ相成度

昭和九年九月 七日 陸軍

9.9.7

B-1403



條

類B120第115004-1-2

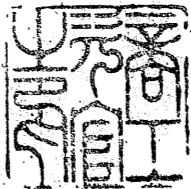


九商第六七五一號

昭和九年十月一日

商工次官 吉野 信次

外務次官 重光 葵殿



「戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル

千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」條

約」御批准奏請ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ昭和九年八月十一日附條一機密第七八五號ヲ以テ照會
有之候處本條約御批准奏請ニ際シテハ本條約第二十八條(四)ニ付千九百
二十五年「ヘーグ」ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護同盟條約加
入ノ效力發生以前ニハ其ノ效力ヲ發生セシメザル様御取計相成度此段

多
後
以
了

昭和九年拾月貳日 接
商 工 省

及回答候也

商 工 省

日本標準規格 B5 (182×257mm)

日本標準規格 B5 (182×257mm)



B-1403

大臣
政務次官
次官
參與官
東亞局長
歐亞局長
亞米利加局長
通商局長
條約局長
情報部長
文化事業部長
調査部長
人事
文
翻
電信課長

昭和九年十月十一日

文書課長
文書課發送
昭和九年拾月拾貳日發送済
淨書
正校(原稿)
昭和九年十月十一日起草
附屬
日附
附屬
昭
和
九
年
十
月
十
一
日
起
草

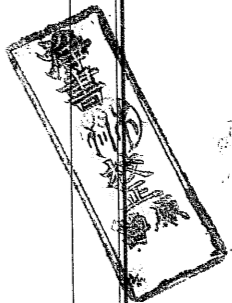
主 管
條約局長
任 主
條約局第一課長
條一機密 第六一八號
昭和九年拾月拾貳日

受 信 人
田田内閣總理大臣
廣田外務大臣
名 件 錄 記
瑞西國「ラテノ」ニ於テ帝國全權委員が關係各國全權委員ト共ニ議定シ且留保ノ上署
件 戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百十九年七月二十七日「ラテノ」條約御批准方奏請ノ件
名 百十九年七月二十七日「ラテノ」條約御批准方奏請ノ件

公 信 案
外 務 省
名ニタル戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百十九年七月二十七日「ラテノ」條約ニ關シ前記留保ヲ存シタル儘御批准ヲ仰グコトト致度別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度右條約ノ正文及譯文各四部相送此致又請致申進候也
(條約正文及譯文各四部添付ト)

B-1403

(上表天案)



瑞西國ノシエネーヴニ於テ帝國全權委員ガ
關係各國全權委員ト共ニ議定シ且印田
保ノ上署名シタル戰地軍隊ニ於ケル傷者及
病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七月
二十七日ノ「シエネーヴ」條約ヲ前記留保ヲ存シ
タル儘御批准相成様仕度別紙御批准

公 信 案

外 務 省

書案相添へ此段謹テ奏ス

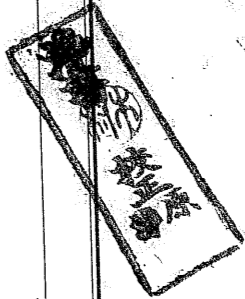
昭和九年十月十二日

外務大臣 廣田弘毅

公 信 案

外 務 省

(御批准書案)



(三行)
翻譯(佛文)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル
日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕帝國全權委員ガ瑞西國「ジュネヴ」ニ於
テ關係各國全權委員ト共ニ議定シ且留
保ノ上署名シタル戰地軍隊ニ於テ傷者及
病者ノ狀態改善ニ關スル千九百二十九年七

公 信 案

外 務 省

(三行)

月二十七日「ジュネヴ」條約ヲ閱覽點檢シ
右留保ヲ存シテ之ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元 年昭和 年 月 日 三行
親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御 名 國 璽

外 務 大 臣

公 信 案

外 務 省

拜啓無言、打過は文書足るは壯健、毎日
外務省の事務のゆゑに在るは、備瑞西の事情
が研究の必要、外務省に在るは、
左記書物お借し得る幸甚、
左記書物お借し得る幸甚、

一 瑞西憲法、修文

William Martin 著 Histoire de la Suisse. Essai sur la formation d'une confederation.

Gonzaque de Reynald 著 La Democratie de la Suisse.

尚二三が是書(2冊)は、
古書物おん存あり

並晴料西語、内月片、
行本、由是未付、
付本、由是未付、

右少原稿、
右少原稿、

井上 嘉

草由 偉足



戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ
状態改善ニ關スル千九百二十九
年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」條約

B-1403

013

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル
千九百二十九年七月二十七日ノ「ジエネーブ」條約

獨逸國大統領、「アメリカ」合衆國大統領、奧地利共和國聯邦大統領、白耳義國皇帝陛下、「ボリヱ
ア」共和國大統領、「ブラジル」合衆共和國大統領、「グレート、ブリテン」、「アイルランド」及
「グレート、ブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下、「ブルガリア」國皇帝陛下、「チリ」共和國
大統領、中華民國國民政府主席、「コロンビア」共和國大統領、「キューバ」共和國大統領、丁抹國
及「アイスランド」國皇帝陛下、「ドミニカ」共和國大統領、「エジプト」國皇帝陛下、西班牙國皇
帝陛下、「エストニア」共和國大統領、「フィンランド」共和國大統領、佛蘭西共和國大統領、希臘
共和國大統領、「ハンガリー」國攝政殿下、伊太利國皇帝陛下、日本國皇帝陛下、「ラトヴィア」
共和國大統領、「ルクセンブルグ」國大公殿下、「メキシコ」合衆國大統領、「ニカラグア」共和國大
統領、諾威國皇帝陛下、和蘭國皇帝陛下、「ペルシア」國皇帝陛下、「ポーランド」共和國大統領、
「ポルトガル」共和國大統領、「ルーマニア」國皇帝陛下、「セルブ、クロアイト、スロヴェニス」國
皇帝陛下、暹羅國皇帝陛下、瑞典國皇帝陛下、「チチコスロヴァキア」共和國大統領、
「トルコ」共和國大統領、「ウルグアイ」東方共和國大統領、「ヴェネズエラ」合衆共和國大統領ハ

共ニ其ノ力ノ及ブ限リ戰爭ニ避クベカラザル慘害ヲ輕減センコトヲ冀望シ此ノ目的ヲ以テ戰地軍
隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關シ千八百六十四年八月二十二日及千九百六年七月六日「ジュ
ネーヴ」ニ於テ約定シタル規定ヲ完成補修セント欲シ
之ガ爲新條約ヲ締結スルコトニ決定シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ
獨逸國大統領

待命公使、法學博士「エドムンド、ロームベルグ」

「アメリカ」合衆國大統領

前大藏次官補「エリオト、ワヅウキース」

瑞西國駐劄「アメリカ」合衆國特命全權公使「ヒュー、アール、ウィルソン」

埃地利共和國聯邦大統領

聯邦宰相官房省參事官（外務部）、法學博士「マルク、ライトマイエル」

白耳義國皇帝陛下

陸軍第一管區衛生部司令官、陸軍軍醫監「ポール、ドモルデル」

外務省法律顧問「ジョゼフ、ド、リュエル」

「ボリヴィア」共和國大統領

瑞西國駐劄「ボリヴィア」國辦理公使「アルベルト、コルタデリアス」

「ブラジル」合衆共和國大統領

瑞西國駐劄「ブラジル」國特命全權公使「ラウル、ド、リオ・ブランコ」

「グレート、ブリテン」、「アイルランド」及「グレート、ブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」並ニ國際聯盟ノ個個ノ聯盟國ニ非ザル英帝國
ノ一切ノ部分

獨逸國駐劄英國大使「サー、ホレース、ランボルド」

「カナダ」

國際聯盟ニ派遣ノ「カナダ」政府常任顧問「ウォルター、アレクサンダー、リッデル」

「オーストラリア」聯邦

瑞西國駐劄英國特命全權公使「クロード、ラッセル」

「ニュー、ジーランド」

瑞西國駐劄英國特命全權公使「クロード、ラッセル」



南「アフリカ」聯邦

「ロンドン」駐在南「アフリカ」聯邦高級委員「イリーク、ヘンドリック、ロウ」

「アイルランド」自由國

國際聯盟ニ派遣ノ「アイルランド」自由國代表者「シーン、レスター」

印度

瑞西國駐劄英國特命全權公使「クロード、ラッセル」

「ブルガリア」國皇帝陛下

國際聯盟ニ派遣ノ「ブルガリア」國政府常任代表者、在「ベルヌ」
「ブルガリア」國代理公

使「ディミトリ、ミコフ」

「ブルガリア」國赤十字社理事「ステファニス、エヌ、ラフチエフ」

「チリ」共和國大統領

在「ベルリン」
「チリ」國公使館附陸軍武官、陸軍大佐「ギリエルモ、ノゾア・セブルヴェダ」

衛生部大尉「ダリオ、ブルガル・アリアガダ」

中華民國國民政府主席

在「ベルヌ」中華民國臨時代理公使蕭繼榮

「コロンビア」共和國大統領

瑞西國駐劄「コロンビア」國特命全權公使「フランシスコ、ホセ、デ、ウルタイア」

「キューバ」共和國大統領

瑞西國駐劄「キューバ」國特命全權公使「カルロス、デ、アルメンテロス、イ、デ、カルデナス」

國際聯盟ニ派遣ノ「キューバ」國代表部附、公使館書記官「カルロス、ブランコ、イ、サンチェス」

丁抹國及「アイスランド」國皇帝陛下

丁抹國

前外務大臣、瑞西國及和蘭國駐劄丁抹國特命全權公使、侍從「ハラルド、ド、スカヴェニウス」

在「ベルヌ」丁抹國臨時代理公使「グスターフ、エム、ラスマッセン」

「ドミニカ」共和國大統領

「ジュネーヴ」駐在「ドミニカ」共和國領事「シャルル、アッケルマン」

「エジプト」國皇帝陛下

「カイロ」陸軍士官學校國際法教授、國家訴訟事件部辯護士「モハマド、アブデル、モネイム、リアド」

在「ローマ」「エジプト」王國公使館外交官補「アンリ、ワシフ、シマイカ」
西班牙國皇帝陛下

瑞西國駐劄西班牙國特命全權公使「トーレエルモサ」侯爵

「エストニア」共和國大統領

「エストニア」國赤十字社社長、醫學博士「ハンス、リースメント」

「フィンランド」共和國大統領

在「パリ」「フィンランド」國公使館附陸軍武官、陸軍中佐「アー、エー、マルトラ」

佛蘭西共和國大統領

瑞西國駐劄佛蘭西國大使「アンリ、シアサン、ド、マルシイー」

在「ベルヌ」佛蘭西國大使館參事官「ジャン、デ、ソール」

希臘共和國大統領

在「ベルヌ」希臘國臨時代理公使「ラファエル、ラファエル」

在「パリ」希臘國公使館附陸軍武官、陸軍中佐「ソフォクル、ヴェニゼロス」

「ハンガリー」國攝政殿下

國際聯盟ニ派遣ノ王國政府常任代表委員、辦理公使「ポール、ド、ヘヴェシ」
伊太利國皇帝陛下

伊太利國上院議員「ジョヴァンニ、チラオロ」

日本國皇帝陛下

瑞西國駐劄日本國特命全權公使吉田伊三郎

陸軍中佐下村定

在「パリ」日本國大使館附海軍武官、海軍中佐三浦省三

「ラトヴィア」共和國大統領

國際聯盟ニ派遣ノ常任代表委員、「セルブ、クローアト、スロヴェニス」國駐劄「ラトヴィア」國特命全權公使「シャルル、ド、ドーズマンヌ」

瑞西國、獨逸國、「ハンガリー」國及和蘭國駐劄「ラトヴィア」國特命全權公使「オスカル、

グキイト」

「ルクセンブルグ」國大公殿下

「ジュネーヴ」駐在大公國領事「シャルル、ヴェルメール」

「メキシコ」合衆國大統領

白耳義國駐劄「メキシコ」國特命全權公使、陸軍軍醫總監「フランシスコ、カスティリヤ、ナヘラ」

「ニカラグア」共和國大統領

國際聯盟ニ派遣ノ「ニカラグア」國常任代表委員、法學博士「アントアンヌ、ソッティール」
諾威國皇帝陛下

瑞西國、伊太利國及希臘國駐劄諾威國特命全權公使「ヨハネス、イルゲンズ」

諾威國赤十字社書記長、陸軍歩兵少佐「ヤンス、クリスティアン、メイニック」

和蘭國皇帝陛下

瑞西國駐劄和蘭國特命全權公使「ヰイレム、イサーク、ダウデ、ファン、トローストヰアイク」

和蘭國赤十字社副社長、陸軍衛生部軍醫總監、陸軍少將「ヨハン、カルル、デール」

陸軍大學校教授、參謀本部附陸軍少佐「ヤコブ、ハルベルツ」

「ベルシヤ」國皇帝陛下

瑞西國駐劄「ベルシヤ」國特命全權公使「アヌシレヰァン、カーン、セバーボヰイ」

「ポーランド」共和國大統領

陸軍軍醫大佐「ヨゼフ、ガブリエル、ブラツキ」

陸軍中佐「ヰー、イェジ、バベツキ」

「ポルトガル」共和國大統領

瑞西國駐劄「ポルトガル」國特命全權公使「ヰァスコ、デ、ケヰヰド」

公使館一等書記官「フランシスコ、デ、カリエイロス、エ、メネセス」

「ルーマニア」國皇帝陛下

瑞西國駐劄「ルーマニア」國特命全權公使「ミシエル、ベー、ボエレスコ」

參謀、陸軍大佐「ユージエヌ、ヰエルラヰァノ」

「セルブ、クロアアト、スロヰヰニス」國皇帝陛下

國際聯盟ニ派遣ノ常任代表委員、瑞西國駐劄「セルブ、クロアアト、スロヰヰニス」王國

特命全權公使「イリア、シエメンコヰヰチ」

暹羅國皇帝陛下

英國駐劄暹羅國特命全權公使「ヰァルンヰヰヰディア」殿下

瑞典國皇帝陛下

瑞西國駐劄瑞典國特命全權公使「カルル、イヴァン、ヴェストマン」

瑞西聯邦政府

聯邦政務省外務部長、全權公使「ホルム、ディニシール」

陸軍軍醫長、衛生部大佐「カルル、ハウゼル」

辯護士、休職陸軍歩兵大佐「アントン、チュープリン」

軍醫、衛生部中佐「ロジエ、ド、ラ、ハルプ」

「チューリッヒ」大學國際法教授、陸軍法務少佐「ディートリッヒ、シンドレル」

「チッコスロヴァキア」共和國大統領

瑞西國駐劄「チッコスロヴァキア」國特命全權公使「ズデニク、フィールリンドル」

「トルコ」共和國大統領

「トルコ」國赤新月社副社長、「トルコ」國國民議會副議長「ハッサン、ベイ」

共和國參議院議長「ヌスレット、ベイ」

醫學博士、教授「アキル、ムフタル、ベイ」

實施學校及「ギェルハネ」病院教授、軍醫、陸軍中佐「ドクトル、アブズルカディール、ベイ」

「ウルグアイ」東方共和國大統領

瑞西國駐劄「ウルグアイ」國特命全權公使「アルフレド、デ、カストロ」

「ヴェネズエラ」合衆共和國大統領

伊太利國駐劄「ヴェネズエラ」國特命全權公使「カラクシオロ、バラ・ペレス」

在「ベルヌ」
「ヴェネズエラ」國臨時代理公使「イヴァン、マヌエル、ウルタド・マチアド」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一章 傷者及病者

第一條

軍人及公ニ軍隊ニ附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ如何ナル場合ニ於テモ尊重且保護セラルベシ右ノ軍人及人員ハ國籍ノ如何ヲ問ハズ之ヲ自己ノ權内ニ收容シタル交戦者ニ依リ博愛ノ心ヲ以テ待遇セラレ且看護セララルベシ
尤モ傷者又ハ病者ヲ救ニ遺棄スルノ已ムヲ得ザルニ至リタル交戦者ハ軍事上ノ要求ノ許ス限リ其ノ看護ニ寄與スル爲其ノ衛生人員及衛生材料ノ一部ヲ傷者病者ト共ニ遺留スベシ

第二條

一方ノ軍隊ノ傷者及病者ニシテ他方ノ交戦者ノ権内ニ陥リタルモノハ前條ニ依リテ看護ヲ享クルノ外俘虜ト爲リ俘虜ニ關スル國際法ノ一般規則ヲ適用セララルベシ
尤モ交戦者ハ傷者又ハ病者タル俘虜ノ爲ニ且現存ノ義務以外ニ其ノ有益ト認ムル條項ヲ定ムルコトヲ得ベシ

第三條

各戦闘後戰場ノ占領者ハ傷者及死者ヲ搜索シ且掠奪及虐待ニ對シテ之ヲ保護スルノ措置ヲ執ルベシ
戦線間ニ殘留スル傷者ヲ收容スルコトヲ得シムル爲事情ノ許ストキハ其ノ都度局地的休戦又ハ射撃中止ヲ協定スベシ

第四條

交戦者ハ收容又ハ發見セラレタル傷者、病者及死者ノ姓名並ニ之ヲ認識スルニ足ル一切ノ資料ヲ成ルベク速ニ相互ニ通知スベシ
交戦者ハ死亡證明書ヲ作成シ且交換スベシ
交戦者ハ又戰場ニ於テ又ハ死者ヨリ發見セラレタル一切ノ個人的用品特ニ認識票ノ半分(他ノ半

分ハ屍體ニ附ケ置カルベキモノトス)ヲ蒐集シ且交換スベシ

交戦者ハ死者ノ土葬又ハ火葬ニ先チ死亡ヲ確認シ死者ヲ認識シ且之ガ報告ヲ爲シ得ル爲慎重ナル且出來得レバ醫學的ノ身體検査ノ行ハルル様注意スベシ

交戦者ハ尙死者ガ敬意ヲ以テ埋葬セラレ、其ノ墳墓ガ尊敬セラレ且常ニ見出サレ得ル様注意スベシ

交戦者ハ之ガ爲戦争開始ニ際シ墳墓ノ場所ノ移轉如何ニ拘ラズ後日爲スコトアルベキ屍體發掘ヲ可能ナラシメ且屍體ヲ認識シ得シムル目的ヲ以テ墳墓係ヲ公ニ組織スベシ

交戦者ハ戦争ノ終リタルトキハ直ニ墳墓表並ニ其ノ墓地及他ノ場所ニ埋葬セラレタル死者ノ表ヲ交換スベシ

第五條

軍事官憲ハ其ノ監督ノ下ニ兩軍ノ傷者又ハ病者ヲ收容看護セシムル爲住民ノ慈惠心ニ訴フルコトヲ得ベク之ニ應ジタル者ニハ特別ノ保護及一定ノ便宜ヲ與フルモノトス

第二章 衛生上ノ部隊及營造物

第六條

移動衛生部隊即チ戦地軍隊ニ随伴スベキモノ及衛生機關ノ固定營造物ハ交戦者ニ於テ之ヲ尊重保護スベシ

第七條

衛生上ノ部隊及營造物ガ害敵行爲ノ爲ニ使用セラルルトキハ其ノ保護ヲ失フベシ

第八條

左記ノ事實ハ衛生上ノ部隊又ハ營造物ガ第六條ニ依リ保障セラレタル保護ヲ喪失スベキ性質ノモノト看做サレザルベシ

- (一) 部隊又ハ營造物ノ人員ガ武装シ其ノ武器ヲ自己又ハ傷者及病者ノ防衛ノ爲ニ使用スルノ事實
- (二) 武装看護人ノ在ラザルニ當リ歩哨又ハ衛兵ヲシテ部隊又ハ營造物ヲ守衛セシムルノ事實
- (三) 傷者及病者ヨリ取上ゲタルモ未ダ所轄機關ニ引渡サレザル携帯武器及彈藥ガ部隊又ハ營造物内ニ發見セラレタルノ事實
- (四) 獸醫機關ノ人員及材料ガ部隊又ハ營造物ノ一部分ヲ構成セズシテ其ノ内ニ在ルノ事實

第三章 人員

第九條

傷者及病者ノ收容、輸送及治療並ニ衛生上ノ部隊及營造物ノ事務ニ専ラ従事スル人員並ニ軍隊附屬ノ教法者ハ如何ナル場合ニ於テモ尊重且保護セラレベシ此等ノ者ハ敵手ニ陥リタルトキト雖モ俘虜トシテ取扱ハルルコトナカルベシ

軍人ニシテ場合ニ依リ補助看護人又ハ補助擔架兵トシテ傷者及病者ノ收容、輸送及治療ニ使用セラルル爲特別ニ教育セラレ且認識證明書ヲ携帯スルモノハ此等ノ職務ノ遂行中捕ヘラレタルトキハ常置衛生人員ト同一ノ制度ノ利益ヲ享有スベシ

第十條

本國政府ガ適法ニ認可シタル篤志救恤協會ノ人員ニシテ第九條第一項ニ掲ゲタル人員ト同一ノ職務ニ使用セラルルモノハ該項ニ掲ゲタル人員ト同一ニ看做サルベシ但シ該協會ノ人員ハ軍ノ法令ニ服従スベキモノトス

各締約國ハ其ノ責任ノ下ニ自國軍隊ノ公ノ衛生勤務ニ援助ヲ與フルコトヲ許可シタル協會ノ名稱ヲ平時ヨリ又ハ戦争開始ノ際若ハ戦争中何レノ場合ニモ之ヲ實際ニ使用スルニ先チ他ノ締約國ニ通告スベシ

第十一條

中立國ニ於テ認可セラレタル協會ハ豫メ自國政府ノ承認ヲ得且交戦者ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ
其ノ人員及衛生部隊ヲシテ當該交戦者ニ援助ヲ與ヘシムルコトヲ得ザルベシ
右救護ヲ承諾シタル交戦者ハ其ノ使用ニ先チ之ヲ敵ニ通告スベシ

第十二條

第九條、第十條及第十一條ニ掲ゲタル人員ハ相手方ノ權内ニ陥リタル後抑留セララルヲ得ザルベシ

反對ノ合意ナキ限り右人員ハ歸路開通シ且軍事上ノ要求ガ之ヲ許スニ至リタルトキハ直ニ其ノ屬
スル交戦者ニ送還セララルベシ

右人員ハ送還セララル迄相手方ノ指揮ノ下ニ在リテ引續キ各自ノ職務ヲ執行スベシ右人員ハ成ル
ベク其ノ屬スル交戦者ノ傷者及病者ノ看護ニ従事セシメララルベシ

右人員ハ其ノ出發ニ際シ其ノ所有スル被服、器具、武器及輸送機關ヲ持去ルベシ

第十三條

交戦者ハ第九條、第十條及第十一條ニ掲ゲタル人員ガ其ノ權内ニ在ル間自國軍隊ノ對當人員ニ對
スルト同一ノ給養、宿舍、手當及給與ヲ之ニ支給スベシ

交戦者ハ戰爭開始後直ニ其ノ衛生人員ノ階級ノ對當關係ニ付協定スベシ

第四章 建物及材料

第十四條

移動衛生部隊ハ其ノ何タルヲ問ハズ相手方ノ權内ニ陥ルトキト雖モ其ノ材料、輸送機關及輸送係
員ヲ保有スベシ

尤モ權限アル軍事官憲ハ傷者及病者看護ノ爲該材料、輸送機關及輸送係員ヲ使用スルノ權能ヲ有
スベク其ノ返還ハ衛生人員ノ爲ニ定メラレタル條件ニ於テ且成ルベク之ト同時ニ爲サルベシ

第十五條

軍隊ノ衛生上ノ固定營造物ノ建物及材料ハ戰爭ノ法規ニ從フベシ然レドモ傷者及病者ノ爲ニ必要
ナル間ハ其ノ用途ヲ他ニ轉ズルコトヲ得ザルベシ
尤モ作戰部隊ノ指揮官ハ緊急ナル軍事上ノ必要アルトキハ豫メ固定營造物内ニ於テ治療セララル
傷者及病者ノ安全ヲ圖リタル後之ヲ處分スルコトヲ得ベシ

第十六條

本條約ノ利益ヲ享有スル救恤協會ノ建物ハ私有財産ト看做サルベシ

右協會ノ材料ハ其ノ所在ノ如何ヲ問ハズ同様ニ私有財産ト看做サルベシ
戰爭ノ法規慣例ニ依リ交戦者ニ認メラレタル徵發權ハ緊急ナル必要アル場合ニ於テ且傷者及病者
ノ安全ヲ圖リタル後ニ於テノミ行使セララルベシ

一八

第五章 衛生上ノ輸送機關

第十七條

衛生上ノ後送ノ爲裝備セラレタル車輛ニシテ單獨ニ又ハ隊ヲ爲シテ移動スルモノハ左ノ特別規定
ニ依ルノ外移動衛生部隊トシテ取扱ハラルベシ
單獨ノ又ハ隊ヲ爲セル衛生上ノ輸送車輛ヲ遮斷スル交戦者ハ軍事上ノ必要アルトキハ一切ノ場合
ニ於テ該車輛ノ收容シタル傷者又ハ病者ヲ引取リタル後之ヲ停止シ隊ヲ解クコトヲ得ベシ交戦者
ハ該車輛ヲ遮斷セラレタル戦區ニ於テ且衛生上ノ必要ノ爲ニノミ之ヲ利用スルコトヲ得ベシ該車
輛ハ其ノ局地ノ任務ノ終了シタルトキハ第十四條ニ規定セラレタル條件ニ於テ返還セララルベシ
輸送ニ任ジ且之ガ爲正規ノ命令書ヲ携帶スル軍人軍屬ハ衛生人員ニ付第十二條ニ規定セラレタル
條件ニ於テ且第十八條末項ノ留保ノ下ニ送還セララルベシ
後送ノ爲ニ特ニ組織セラレタル一切ノ輸送機關及右輸送機關ノ裝備材料ニシテ衛生機關ニ屬スル

モノハ第四章ノ規定ニ從ヒ返還セララルベシ

衛生機關ニ屬セザル軍隊ノ輸送機關ハ其ノ緊要ト共ニ之ヲ捕獲スルコトヲ得ベシ
徵發ニ由レル普通人及一切ノ輸送機關ハ國際法ノ一般規則ニ從フベシ

第十八條

衛生上ノ輸送機關トシテ使用セララルル航空機ハ專ラ傷者及病者ノ後送竝ニ衛生人員及衛生材料ノ
輸送ニ充テラルル間本條約ノ保護ヲ享有スベシ
右航空機ハ白色ニ塗ラルベク且下面及上面ニ國色章ノ傍ニ第十九條ニ規定セラレタル殊別記章ヲ
明瞭ニ附セララルベシ
特別ノ且明白ナル許可アル場合ヲ除キ戦線及野戦病院ノ前方ニ存スル地帯竝ニ一般ニ敵ノ一切ノ
領域又ハ敵ニ依リ占領セラレタル一切ノ領域ノ上ノ飛行ハ禁止セララルベシ
衛生航空機ハ著陸ノ要求アルトキハ必ズ之ニ從フコトヲ要ス
敵ノ領域又ハ敵ニ依リ占領セラレタル領域上ニ於ケル右強制的ノ又ハ偶然ノ著陸ノ場合ニハ傷者
及病者竝ニ衛生人員及衛生材料(航空機ヲ含ム)ハ引續キ本條約ノ規定ノ利益ヲ享有スベシ
捕ヘラレタル操縦者、運航従事者及無線電信技術者ハ戰爭ノ終了スル迄衛生勤務ニノミ使用セラ

一九

ルルコトヲ條件トシテ送還セラルベシ

第六章 殊別記章

第十九條

瑞西國ニ對シ敬意ヲ表スル爲該聯邦國旗ノ著色ヲ顛倒シテ作成シタル白地赤十字ノ紋章ハ軍隊ノ衛生勤務ノ標章及殊別記章トシテ維持セラルベシ
尤モ赤十字ノ代リニ白地ニ赤新月又ハ赤ノ獅子及太陽ヲ殊別記章トシテ既ニ使用スル諸國ニ付テハ右標章ハ本條約ノ意義ニ於テ同様ニ許容セラルベシ

第二十條

標章ハ權限アル軍事官憲ノ認許ヲ得テ衛生勤務ニ關係アル旗、臂章及一切ノ材料ニ表出セラルベシ

第二十一條

第九條第一項、第十條及第十一條ニ依リ保護セラルル人員ハ軍事官憲ヨリ交付シ且其ノ印章ヲ捺シタル殊別記章ヲ附セル臂章ヲ左腕ニ裝著シ置クベシ

第九條第一項及第二項ニ掲ゲタル人員ハ軍隊手牒ヘノ記入又ハ特別ノ書類ヨリ成ル認識證明書ヲ

付與セラルベシ

權限アル軍事官憲ハ第十條及第十一條ニ掲ゲタル人員ニシテ軍服ヲ有セザルモノヲシテ其ノ衛生人員タルノ資格ヲ證明スル寫眞附認識證明書ヲ所持セシムベシ
認識證明書ハ各軍ニ於テ劃一的ニシテ且同一型ノモノタルベシ

如何ナル場合ニ於テモ衛生人員ハ其ノ徽章又ハ固有ノ認識證明書ヲ奪ハルルコトヲ得ザルベシ
紛失ノ場合ニハ右人員ハ其ノ複本ヲ取得スルノ權利ヲ有スベシ

第二十二條

本條約ノ殊別旗ハ本條約ニ依リテ尊重セラルル衛生上ノ部隊及營造物ニシテ軍事官憲ノ認許ヲ受ケタルモノニ非ザレバ之ヲ掲揚スルコトヲ得ザルベシ
固定營造物ニ於テハ右殊別旗ト共ニ該營造物ノ屬スル交戦者ノ國旗ヲ掲揚スルコトヲ要スベク移動部隊ニ於テハ該部隊ノ屬スル交戦者ノ國旗ヲ之ト共ニ掲揚スルコトヲ得ベシ

尤モ敵ノ權内ニ陥リタル衛生部隊ハ右權内ニ在ル限リ本條約ノ殊別旗ノミヲ掲揚スベシ

交戦者ハ一切ノ攻撃的行動ノ可能性ヲ除去スル目的ヲ以テ、衛生上ノ部隊及營造物ヲ表示スル殊別標章ヲ陸上、空中及海上ノ敵軍ニ明瞭ニ認識セシムル爲必要ナル措置ヲ軍事上ノ要求ノ許ス限

リ執ルベシ

第二十三條

第十一條ニ規定シタル條件ニ於テ其ノ役務ヲ提供スルノ許可ヲ得タル中立國ノ衛生部隊ハ本條約ノ殊別旗ト共ニ其ノ屬スル交戦者ノ國旗ヲ掲揚スルコトヲ要ス
右部隊ハ交戦者ニ役務ヲ提供スル限り同様ニ其ノ自國國旗ヲ掲揚スルノ權利ヲ有スベシ
前條第二項ノ規定ハ右部隊ニ適用セラルベシ

第二十四條

白地赤十字ノ標章及赤十字又ハ「ジュネーヴ」十字ノ語ハ平時ト戰時ト間ハズ本條約ニ依リテ保護セラルル衛生上ノ部隊及營造物並ニ人員及材料ヲ保護シ又ハ表示スル爲ニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ザルベシ

第十九條第二項ニ掲グル標章ニ關シ之ヲ使用スル諸國ニ對シテ亦同様ナルベシ

尚第十條ニ掲グル篤志救恤協會ハ平時ニ於ケル博愛事業ノ爲殊別標章ヲ國內法令ニ從ヒ使用スルコトヲ得ベシ

特例トシテ且國ノ赤十字（赤新月又ハ赤ノ獅子及太陽）社ノ一ノ明白ナル許可ヲ得タルトキハ傷

者又ハ病者ノ無料看護ニ専ラ充テラルル救護所ノ場所ヲ指示スル爲平時ニ於テ本條約ノ標章ヲ使用スルコトヲ得ベシ

第七章 條約ノ適用及執行

第二十五條

本條約ノ規定ハ如何ナル場合ニ於テモ締約國ニ依リ尊重セラルベシ
戰時ニ於テ交戦者ノ一ガ條約ノ當事者タラザル場合ト雖モ條約ノ規定ハ條約ニ參加セル一切ノ交戦者ノ間ニ拘束力ヲ有スベシ

第二十六條

交戦軍ノ總指揮官ハ各其ノ本國政府ノ訓令ニ從ヒ且本條約ノ一般原則ニ準據シ前諸條ノ執行ニ關スル細目及規定漏ノ事項ヲ補足處理スベシ

第二十七條

締約國ハ本條約ノ規定ヲ其ノ軍隊及特ニ保護セラルル人員ニ教示スル爲及之ヲ人民ニ知悉セシムル爲必要ナル措置ヲ執ルベシ

第八章 濫用及違反ノ禁止

第二十八條

締約國政府ニシテ現ニ其ノ法令十分ナラザルモノハ左記事項ヲ常ニ防止スルニ必要ナル措置ヲ執
リ又ハ之ヲ其ノ立法機關ニ提案スベシ

(イ) 商業上ノ目的ヲ以テスルト他ノ如何ナル目的ヲ以テスルトハズ個人又ハ本條約ニ依リ使
用ノ權利ヲ有スルモノ以外ノ團體ニ依ル赤十字又ハ「ジュネーヴ」十字ノ標章又ハ名稱並ニ之ガ
模倣ト爲ル一切ノ記章及名稱ノ使用

(ロ) 瑞西聯邦國旗ノ著色ノ顛倒セラレタルモノノ採用ニ依リ同國ニ對シ敬意ノ表セラレタルニ鑑
ミ商業上ノ誠實ニ反スル目的ニ於ケルト瑞西ノ國民的感情ヲ毀損スルコトアルベキ状態ニ於ケ
ルトハズ個人又ハ團體ニ依ル瑞西聯邦ノ紋章又ハ之ガ模倣ト爲ル記章ノ製造標若ハ商標又
ハ右製造標若ハ商標ノ要部トシテノ使用

赤十字又ハ「ジュネーヴ」十字ノ標章又ハ名稱ノ模倣ト爲ル記章又ハ名稱ノ使用ノ(イ)ニ規定セ
ラレタル禁止及瑞西聯邦ノ紋章又ハ之ガ模倣ト爲ル記章ノ使用ノ(ロ)ニ規定セラレタル禁止ハ各
法令ニ依リ決定セララルル時期ヨリ且運クトモ本條約ノ實施後五年ニシテ其ノ效力ヲ發生スベシ右
實施後ハ右禁止ニ反スル製造標又ハ商標ヲ採用スルハ適法ナラザルベシ

第二十九條

締約國政府ハ又其ノ刑法不十分ナル場合ニハ本條約ノ規定ニ反スル一切ノ行爲ヲ戰時ニ於テ禁止
スルニ必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法機關ニ提案スベシ

締約國政府ハ運クトモ本條約批准ノ時ヨリ五年以内ニ瑞西聯邦政府ノ仲介ニ依リ右禁止ニ關スル
規定ヲ相互ニ通告スベシ

第三十條

本條約ニ對スル違反アリトノ主張アルトキハ一交戰者ノ請求ニ基キ、關係當事者間ニ定メラルベ
キ手續ニ從ヒ右違反ニ付審査開始セララルベシ違反確認セララルトキハ交戰者ハ成ルベク速ニ違反
ヲ止メ且之ヲ禁止スベシ

最終規定

第三十一條

本日ノ日附ヲ有スベキ本條約ハ千九百二十九年七月一日「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル會議ニ代
表者ヲ派遣シタル一切ノ國及該會議ニ代表者ヲ派遣セザルモノ千八百六十四年又ハ千九百六年ノ
「ジュネーヴ」條約ニ參加セル國ノ名ニ於テ千九百三十年二月一日迄ニ署名セラレ得ベシ



第三十二條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベシ
批准書ハ「ベルヌ」ニ於テ寄託セラルベシ
各批准書ノ寄託ニ付調書一通作成セラレ其ノ認證原本ハ瑞西聯邦政府ヨリ自己ノ名ニ於テ本條約
ガ署名セラレ又ハ加入ガ通告セラレタル一切ノ國ノ政府ニ交付セラルベシ

第三十三條

本條約ハ少クトモ二箇ノ批准書ガ寄託セラレタル後六月ニシテ實施セラルベシ
爾後本條約ハ各締約國ニ付其ノ批准書ノ寄託後六月ニシテ實施セラルベシ

第三十四條

本條約ハ締約國間ノ關係ニ於テ千八百六十四年八月二十二日及千九百零六年七月六日ノ條約ニ代ル
ベシ

第三十五條

自己ノ名ニ於テ本條約ガ署名セラレザリシ國ハ何レモ本條約實施ノ日ヨリ其ノ名ニ於テ之ニ加入
スルコトヲ得

第三十六條

加入ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ對シ通告セラルベク加入書ガ同國政府ニ到達シタル日ノ後六月
ニシテ效力ヲ生ズベシ
瑞西聯邦政府ハ自己ノ名ニ於テ條約ガ署名セラレ又ハ加入ガ通告セラレタル一切ノ國ノ政府ニ右
加入ヲ通知スベシ

第三十七條

戰爭狀態ハ戰爭開始前又ハ開始後交戰國ニ依リ寄託セラレタル批准及通告セラレタル加入ニ對シ
直ニ效力ヲ生ゼシムベシ瑞西聯邦政府ハ戰爭狀態ニ在ル國ヨリ受ケタル批准又ハ加入ヲ最迅速ナ
ル方法ニ依リ通知スベシ

第三十八條

各締約國ハ本條約ヲ廢棄スルノ權能ヲ有スベシ廢棄ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ通告シタル
後一年ヲ經過スルニ非ザレバ效力ヲ生ズルコトナカルベシ瑞西聯邦政府ハ右通告ヲ一切ノ締約國
政府ニ通知スベシ
廢棄ハ之ヲ通告シタル國ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズベシ

尙右廢棄ハ廢棄國ガ參加セル戰爭中其ノ效力ヲ生ゼザルベシ此ノ場合ニ於テハ本條約ハ一年ノ期間滿了後更ニ平和條約締結迄引續キ其ノ效力ヲ有スベシ

第三十九條

本條約ノ認證牒本ハ瑞西聯邦政府ノ手配ニ依リ國際聯盟ノ記録ニ寄託セラルベシ同様ニ瑞西聯邦政府ニ通告セラルベキ批准、加入及廢棄ハ同政府ニ依リ國際聯盟ニ通知セラルベシ

右證據トシテ前記全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百二十九年七月二十七日「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作成ス右一通ハ瑞西聯邦ノ記録ニ寄託保存セラルベク其ノ認證牒本ハ會議ニ招請セラレタル一切ノ國ノ政府ニ交付セラルベシ

獨逸國

エドムンド、ロームベルグ

「アメリカ」合衆國

エリオット、ワヅウオース
ヒュー、アール、ウイilson

埃地利國

ライトマイエル

白耳義國

ドクトル、ドモルデル
シー、ド、リュエル

「ボリヴィア」國

アー、コルタデリアス

「ブラジル」國

ラウル、ド、リオ・ブランコ

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」竝ニ國際聯盟ノ個個ノ聯盟國ニ非ザル英帝國ノ一切ノ部分
予ハ予ガ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」竝ニ國際聯盟ノ個個ノ聯盟國ニ非ザ



ル英帝國ノ一切ノ部分ノ爲本條約ニ爲ス署名ハ英國皇帝陛下ガ本條約第二十八條ヲ左ノ意味ニ
解釋スベシトノ留保ノ下ニ爲サルルモノナルコトヲ宣言ス即チ同條ニ掲グル立法的措置ニ於テ
ハ瑞西聯邦ノ紋章又ハ該紋章ノ模倣ト爲ル記章ヲ本條約實施前一切ノ適法ノ目的ヲ以テ使用シ
タル個人、組合、商社又ハ會社ハ同一目的ヲ以テスル右ノ紋章又ハ記章ノ使用ヲ繼續スルコト
ヲ妨ゲラルベキモノニ非ザルコトヲ豫見スルコトヲ得

ホレーズ、ランボルド

「カナダ」

予ハ予ガ「カナダ」ノ爲本條約ニ爲ス署名ハ「カナダ」自治領政府ガ本條約第二十八條ヲ左ノ
意味ニ解釋スベシトノ留保ノ下ニ爲サルルモノナルコトヲ宣言ス即チ同條ニ掲グル立法的措置
ニ於テハ瑞西聯邦ノ紋章又ハ該紋章ノ模倣ト爲ル記章ヲ本條約實施前一切ノ適法ノ目的ヲ以テ
使用シタル個人、組合、商社又ハ會社ハ同一目的ヲ以テスル右ノ紋章又ハ記章ノ使用ヲ繼續ス
ルコトヲ妨ゲラルベキモノニ非ザルコトヲ豫見スルコトヲ得

ダブリュー、エー、リッデル

「オーストラリア」

予ハ予ガ「オーストラリア」ノ爲本條約ニ爲ス署名ハ「オーストラリア」聯邦政府ガ本條約第二
十八條ヲ左ノ意味ニ解釋スベシトノ留保ノ下ニ爲サルルモノナルコトヲ宣言ス即チ同條ニ掲
ル立法的措置ニ於テハ瑞西聯邦ノ紋章又ハ該紋章ノ模倣ト爲ル記章ヲ本條約實施前一切ノ適法
ノ目的ヲ以テ使用シタル個人、組合、商社又ハ會社ハ同一目的ヲ以テスル右ノ紋章又ハ記章ノ
使用ヲ繼續スルコトヲ妨ゲラルベキモノニ非ザルコトヲ豫見スルコトヲ得

クロード、ラッセル

「ニュー、ジールランド」

予ハ予ガ「ニュー、ジールランド」ノ爲本條約ニ爲ス署名ハ「ニュー、ジールランド」政府ガ本條約第
二十八條ヲ左ノ意味ニ解釋スベシトノ留保ノ下ニ爲サルルモノナルコトヲ宣言ス即チ同條ニ掲
グル立法的措置ニ於テハ瑞西聯邦ノ紋章又ハ該紋章ノ模倣ト爲ル記章ヲ本條約實施前一切ノ適
法ノ目的ヲ以テ使用シタル個人、組合、商社又ハ會社ハ同一目的ヲ以テスル右ノ紋章又ハ記章
ノ使用ヲ繼續スルコトヲ妨ゲラルベキモノニ非ザルコトヲ豫見スルコトヲ得

クロード、ラッセル

南「アフリカ」

「アイルランド」自由國
アイリク、エイチ、ロウ

予ハ予ガ「アイルランド」自由國ノ爲本條約ニ爲ス署名ハ「アイルランド」自由國ガ本條約第二十八條ヲ左ノ意味ニ解釋スベシトノ留保ノ下ニ爲サルルモノナルコトヲ宣言ス即チ同條ニ掲グル立法的措置ニ於テハ瑞西聯邦ノ紋章又ハ該紋章ノ模倣ト爲ル記章ヲ本條約實施前一切ノ適法ノ目的ヲ以テ使用シタル個人、組合、商社又ハ會社ハ同一目的ヲ以テスル右ノ紋章又ハ記章ノ使用ヲ繼續スルコトヲ妨ゲラルベキモノニ非ザルコトヲ豫見スルコトヲ得
シーン、レスター

印度
予ハ予ガ印度政府ノ爲本條約ニ爲ス署名ハ印度政府ガ本條約第二十八條ヲ左ノ意味ニ解釋スベシトノ留保ノ下ニ爲サルルモノナルコトヲ宣言ス即チ同條ニ掲グル立法的措置ニ於テハ瑞西聯邦ノ紋章又ハ該紋章ノ模倣ト爲ル記章ヲ本條約實施前一切ノ適法ノ目的ヲ以テ使用シタル個人、組合、商社又ハ會社ハ同一目的ヲ以テスル右ノ紋章又ハ記章ノ使用ヲ繼續スルコトヲ妨ゲラルベキモノニ非ザルコトヲ豫見スルコトヲ得

「ブルガリア」國
クロード、ラッセル

「チリ」國
デー、ミコップ
ステファニス、エヌ、ラフチエフ
ペー、ノヅギア

中華民國
デー、ブルガル

蕭繼榮
「コロンビア」國
フランシスコ、ホセ、ウルティア

「キューバ」國
カルロス、デ、アルメンテロス
カルロス、ブランコ



丁抹國

ハラルド、スカグエニウス
グスターフ、ラスムッセン

「ドミニカ」共和國

セー、アッケルマン

「エジプト」國

モハメド、アブデル、モネイム、リアド
アッシユ、ドゥブルヴェー、エム、シマイカ

西班牙國

政府ノ承認ヲ條件トス

トーレエルモサ侯爵マウリシオ、ロベス、ロベルツ、イ、テリ

「エストニア」國

ドクトル、リースメント

「フィンランド」國

アー、エー、マルトラ

佛蘭西國

アッシユ、ド、マルシイー
ジー、デミ、ソール

希臘國

エール、ラファエル
エス、ヴェニゼロス

「ハンガリー」國

ポール、ド、ヘヴェシ

伊太利國

ジョヴァンニ、チラオロ

日本國

日本國ハ第二十八條ノ規定ニ主義上賛同スルモ同條(ロ)ニ規定スル禁止ノ實施ノ日ニ關シ留保ヲ爲ス

日本國ハ右ノ禁止ハ該禁止ノ實施前使用セラレ又ハ登録セラレタルコトアルベキ紋章及記章ニ適用セラレザルモノト了解ス

日本國代表委員ハ前記留保ノ下ニ本條約ニ署名ス

吉田伊三郎

下村 定

三浦省三

「ラトヴィア」國

シアルル、ドゥーゾマンス

ドクトル、オスカル、ヴォイト

「ルクセンブルグ」國

セー、ジェー、ヴェルメール

「メキシコ」國

エフェ、カステリオ、ナヘラ

「ニカラグア」國

アー、ソッテイル

諾威國

ヨッド、イルゲンス

ヤンス、メイニク

和蘭國

ヴェー、ダウデ、ファン、トローストヴァイク

ドクトル、デイル

イー、ハルベルツ

「ベルシア」國

アスシレヴァン、セバーボディ

「ポーランド」國

ヨゼフ、ゲー、ブラツキ

ゾー、イエジ、バベツキ

「ポルトガル」國

ヴァスコ、デ、ケウエド

エフ、デ、カリエイロス、エ、メネゼス

「ルーマニア」國

エム、ペー、ボエレスコ

陸軍大佐エー、ヴェルテジァノ

「セルブ、クロアート、スロヴェニア」王國

イー、シューメンコウツチ

暹羅國

ヴァルンヴェーディア

瑞典國

コー、イー、ヴェストマン

瑞西國

ポール、ディニシール

ハウゼル

チュープリン

ド、ラ、ハルブ

シンドレル

「チッコスロヴァキア」國

ゼッド、フィールリンゲル

「トルコ」國

ハッサン

ドクトル、アブツルカディール

エム、ヌスレト

ドクトル、アキル、ムフタル

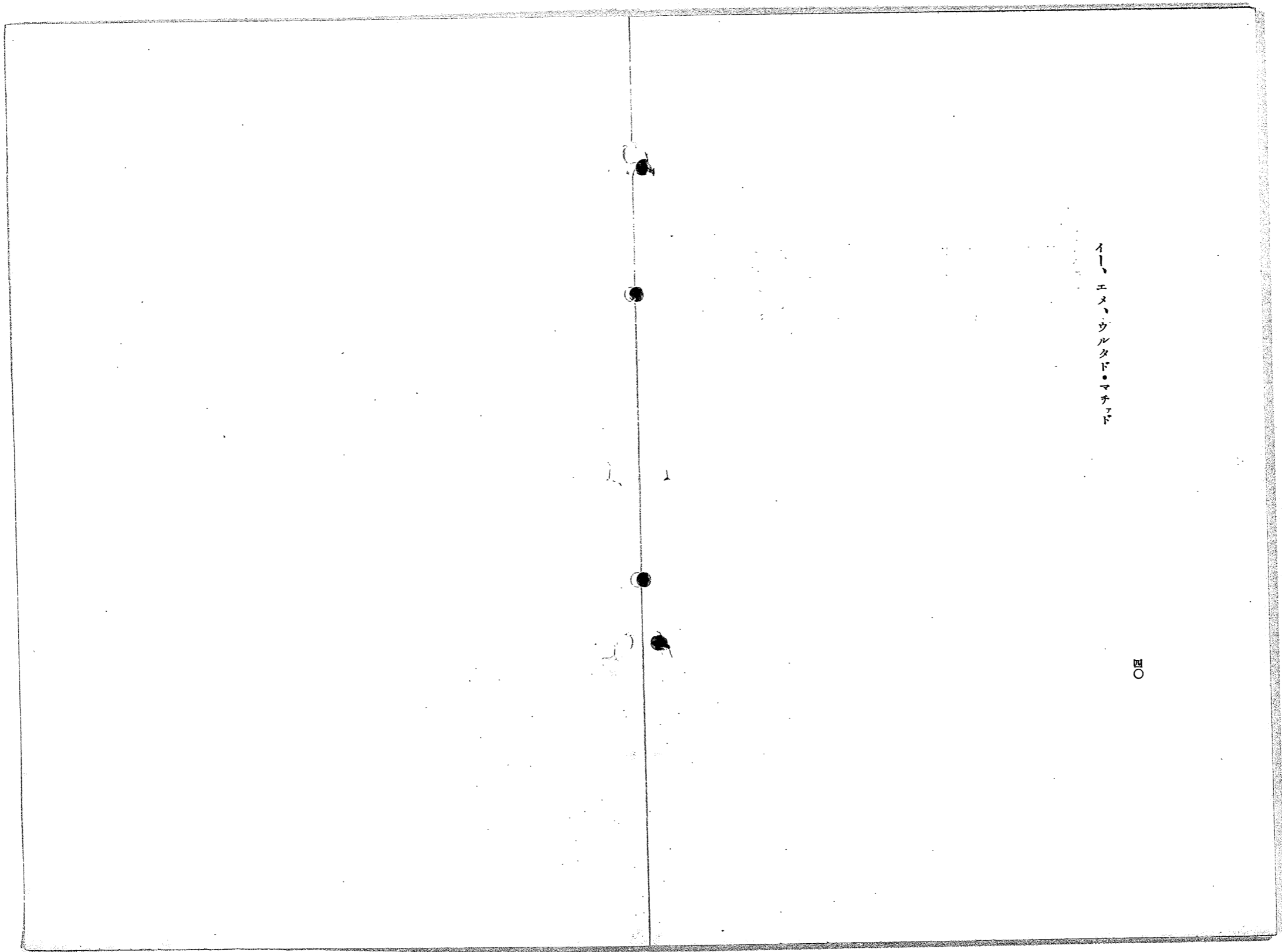
「ウルグアイ」國

アルフレド、デ、カストロ

「ヴェネズエラ」國

セー、バラ、ベレス





イ、エヌ、ウルタド・マチャド

10

B-1403

054

POUR LE VÉNEZUÉLA :

C. PARRA-PÉREZ :

I. M. HURTADO-MACHADO

B-1403

0155

POUR LA NORVÈGE :

J. IRGENS
JENS MEINICH

POUR LES PAYS-BAS :

W. DOUDE VAN TROOSTWIJK
D^r DIEHL
J. HARBERTS

POUR LA PERSE :

ANOUCHIREVAN SEPAHBODI

POUR LA POLOGNE :

JÓZEF G. PRACKI
W. JERZY BABECKI

POUR LE PORTUGAL :

VASCO DE QUEVEDO
F. DE CALHEIROS E MENEZES

POUR LA ROUMANIE :

M. B. BOERESCO
COLONEL E. VERTEJANO

POUR LE ROYAUME DES SERBES, CROATES ET
SLOVÈNES :

I. CHOUMENKOVITCH

POUR LE SIAM :

VARNVAIDYA

POUR LA SUÈDE :

K. I. WESTMAN

POUR LA SUISSE :

PAUL DINICHERT HAUSER ZÜBLIN
DE LA HARPE SCHINDLER

POUR LA TCHÉCOSLOVAQUIE :

ZD. FIERLINGER

POUR LA TURQUIE :

HASSAN
D^r ABDULKADIR M. NUSRET D^r AKIL MOUKHTAR

POUR L'URUGUAY :

ALFREDO DE CASTRO

POUR L'ÉGYPTE :

MOHAMMÉD ABDEL MONEEM RIAD
H. W. M. SIMAIKA

POUR L'ESPAGNE :

Ad Referendum
MAURICIO LOPEZ ROBERTS Y TERRY,
MARQUÉS DE LA TORREHERMOSA

POUR L'ESTONIE :

D^r LEESMENT

POUR LA FINLANDE :

A. E. MARTOLA

POUR LA FRANCE :

H. DE MARCILLY
J. DU SAULT

POUR LA GRÈCE :

R. RAPHAËL
S. VENISELOS

POUR LA HONGRIE :

PAUL DE HEVESY

POUR L'ITALIE :

GIOVANNI CIRAOLO

POUR LE JAPON :

Tout en acceptant en principe les dispositions de l'article 28,
le JAPON fait des réserves quant à la date de mise en vigueur
de l'interdiction prévue sous lettre *b* du dit article.
Le Japon entend que cette interdiction ne s'applique pas aux
armoiries et signes qui auraient été en usage ou enregistrés avant
son entrée en vigueur.
Les délégués du Japon signent la présente Convention moyen-
nant les réserves susmentionnées.

ISABURO YOSHIDA
S. SHIMOMURA
S. MIURA

POUR LA LETTONIE :

CHARLES DUZMANS
D^r OSKAR VOIT

POUR LE LUXEMBOURG :

CH. G. VERMAIRE

POUR LE MEXIQUE :

FR. CASTILLO NÁJERA

POUR LE NICARAGUA :

A. SOTTILE

des signes constituant une imitation des dites armoiries, dans tout but légal, ne devront pas être empêchés de continuer à employer ces armoiries ou signes dans le même but.

CLAUD RUSSELL

POUR L'AFRIQUE DU SUD :

ERIC H. LOUW

POUR L'ÉTAT LIBRE D'IRLANDE :

Je déclare que la signature que j'appose à cette Convention pour l'ÉTAT LIBRE D'IRLANDE est donnée sous cette réserve qu'il entend interpréter l'article 28 de la Convention en ce sens que les mesures législatives visées par cet article pourront prévoir que les particuliers, associations, raisons sociales ou sociétés qui auront employé, avant l'entrée en vigueur de la présente Convention, les armoiries de la Confédération Suisse, ou des signes constituant une imitation des dites armoiries, dans tout but légal, ne devront pas être empêchés de continuer à employer ces armoiries ou signes dans le même but.

SEAN LESTER

POUR L'INDE :

Je déclare que la signature que j'appose à cette Convention pour le Gouvernement de l'INDE est donnée sous cette réserve que le Gouvernement de l'Inde entend interpréter l'article 28 de la Convention en ce sens que les mesures législatives visées par cet article pourront prévoir que les particuliers, associations, raisons sociales ou sociétés qui auront employé, avant l'entrée en vigueur de la présente Convention les armoiries de la Confédération Suisse, ou des signes constituant une imitation des dites armoiries, dans tout but légal, ne devront pas être empêchés de continuer à employer ces armoiries ou signes dans le même but.

CLAUD RUSSELL

POUR LA BULGARIE :

D. MIKOFF
STEPHAN N. LAFTCHIEFF

POUR LE CHILI :

GMO NOVOA
D. PULGAR

POUR LA CHINE :

C. Y. HSIAO

POUR LA COLOMBIE :

FRANCISCO JOSÉ URRUTIA

POUR CUBA :

CARLOS DE ARMENTEROS
CARLOS BLANCO

POUR LE DANEMARK :

HARALD SCAVENIUS
GUSTAV RASMUSSEN

POUR LA RÉPUBLIQUE DOMINICAINE :

CH. ACKERMANN

POUR LA BELGIQUE :

D^r DEMOLDER
J. DE RUELLE

POUR LA BOLIVIE :

A. CORTADELLAS

POUR LE BRÉSIL :

RAUL DO RIO-BRANCO

POUR LA GRANDE-BRETAGNE ET L'IRLANDE DU
NORD, AINSI QUE TOUTE PARTIE DE L'EMPIRE
BRITANNIQUE NON MEMBRE SÉPARÉ DE LA
SOCIÉTÉ DES NATIONS :

Je déclare que la signature que j'appose à cette Convention pour la GRANDE-BRETAGNE et l'IRLANDE DU NORD, ainsi que TOUTE PARTIE DE L'EMPIRE BRITANNIQUE NON MEMBRE SÉPARÉ DE LA SOCIÉTÉ DES NATIONS est donnée sous cette réserve que Sa Majesté Britannique entend interpréter l'article 28 de la Convention en ce sens que les mesures législatives visées par cet article pourront prévoir que les particuliers, associations, raisons sociales ou sociétés qui auront employé, avant l'entrée en vigueur de la présente Convention, les armoiries de la Confédération Suisse, ou des signes constituant une imitation des dites armoiries, dans tout but légal, ne devront pas être empêchés de continuer à employer ces armoiries ou signes dans le même but.

HORACE RUMBOLD

POUR LE CANADA :

Je déclare que la signature que j'appose à cette Convention pour le CANADA est donnée sous cette réserve que le Gouvernement du Dominion du Canada entend interpréter l'article 28 de la Convention en ce sens que les mesures législatives visées par cet article pourront prévoir que les particuliers, associations, raisons sociales et sociétés qui auront employé, avant l'entrée en vigueur de la présente Convention, les armoiries de la Confédération Suisse, ou des signes constituant une imitation des dites armoiries, dans tout but légal, ne devront pas être empêchés de continuer à employer ces armoiries ou signes dans le même but.

W. A. RIDDELL

POUR L'AUSTRALIE :

Je déclare que la signature que j'appose à cette Convention pour l'AUSTRALIE est donnée sous cette réserve que le Gouvernement du Commonwealth d'Australie entend interpréter l'article 28 de la Convention en ce sens que les mesures législatives visées par cet article pourront prévoir que les particuliers, associations, raisons sociales et sociétés qui auront employé, avant l'entrée en vigueur de la présente Convention, les armoiries de la Confédération Suisse, ou des signes constituant une imitation des dites armoiries, dans tout but légal, ne devront pas être empêchés de continuer à employer ces armoiries ou signes dans le même but.

CLAUD RUSSELL

POUR LA NOUVELLE-ZÉLANDE :

Je déclare que la signature que j'appose à cette Convention pour la NOUVELLE-ZÉLANDE est donnée sous cette réserve que le Gouvernement de la Nouvelle-Zélande entend interpréter l'article 28 de la Convention en ce sens que les mesures législatives visées par cet article pourront prévoir que les particuliers, associations, raisons sociales ou sociétés qui auront employé, avant l'entrée en vigueur de la présente Convention, les armoiries de la Confédération Suisse, ou

— 30 —

Le Conseil fédéral suisse communiquera les adhésions aux Gouvernements de tous les pays au nom de qui la Convention aura été signée ou l'adhésion notifiée.

ARTICLE 37.

L'état de guerre donnera effet immédiat aux ratifications déposées et aux adhésions notifiées par les Puissances belligérantes avant ou après le début des hostilités. La communication des ratifications ou adhésions reçues des Puissances en état de guerre sera faite par le Conseil fédéral suisse par la voie la plus rapide.

ARTICLE 38.

Chacune des Hautes Parties Contractantes aura la faculté de dénoncer la présente Convention. La dénonciation ne produira ses effets qu'un an après que la notification en aura été faite par écrit au Conseil fédéral suisse. Celui-ci communiquera cette notification aux Gouvernements de toutes les Hautes Parties Contractantes.

La dénonciation ne vaudra qu'à l'égard de la Haute Partie Contractante qui l'aura notifiée.

En outre, cette dénonciation ne produira pas ses effets au cours d'une guerre dans laquelle serait impliquée la Puissance dénonçante. En ce cas, la présente Convention continuera à produire ses effets, au-delà du délai d'un an, jusqu'à la conclusion de la paix.

— 31 —

ARTICLE 39.

Une copie certifiée conforme de la présente Convention sera déposée aux archives de la Société des Nations par les soins du Conseil fédéral suisse. De même, les ratifications, adhésions et dénonciations qui seront notifiées au Conseil fédéral suisse seront communiquées par lui à la Société des Nations.

EN FOI DE QUOI les Plénipotentiaires susnommés ont signé la présente Convention.

FAIT à Genève, le vingt-sept juillet mil neuf cent vingt-neuf, en un seul exemplaire, qui restera déposé aux archives de la Confédération Suisse et dont des copies, certifiées conformes, seront remises aux Gouvernements de tous les pays invités à la Conférence.

POUR L'ALLEMAGNE:

EDMUND RHOMBERG

POUR LES ÉTATS-UNIS D'AMÉRIQUE:

ELIOT WADSWORTH
HUGH R. WILSON

POUR L'AUTRICHE:

LEITMAIER

B-1 4 0 3

0 1 5 0

cas d'insuffisance de leurs lois pénales, les mesures nécessaires pour réprimer, en temps de guerre, tout acte contraire aux dispositions de la présente Convention.

Ils se communiqueront, par l'intermédiaire du Conseil fédéral suisse, les dispositions relatives à cette répression, au plus tard dans les cinq ans à dater de la ratification de la présente Convention.

ARTICLE 30.

A la demande d'un belligérant, une enquête devra être ouverte, selon le mode à fixer entre les parties intéressées, au sujet de toute violation alléguée de la Convention; une fois la violation constatée, les belligérants y mettront fin et la réprimeront le plus promptement possible.

DISPOSITIONS FINALES.

ARTICLE 31.

La présente Convention, qui portera la date de ce jour, pourra, jusqu'au premier février 1930, être signée au nom de tous les pays représentés à la Conférence qui s'est ouverte à Genève le 1^{er} juillet 1929, ainsi que des pays non représentés à cette Conférence qui participent aux Conventions de Genève de 1864 ou de 1906.

ARTICLE 32.

La présente Convention sera ratifiée aussitôt que possible. Les ratifications seront déposées à Berne.

Il sera dressé du dépôt de chaque instrument de ratification un procès-verbal dont une copie, certifiée conforme, sera remise par le Conseil fédéral suisse aux Gouvernements de tous les pays au nom de qui la Convention aura été signée ou l'adhésion notifiée.

ARTICLE 33.

La présente Convention entrera en vigueur six mois après que deux instruments de ratification au moins auront été déposés.

Ultérieurement, elle entrera en vigueur pour chaque Haute Partie Contractante six mois après le dépôt de son instrument de ratification.

ARTICLE 34.

La présente Convention remplacera les Conventions du 22 août 1864 et du 6 juillet 1906 dans les rapports entre les Hautes Parties Contractantes.

ARTICLE 35.

A partir de la date de sa mise en vigueur, la présente Convention sera ouverte aux adhésions données au nom de tout pays au nom duquel cette Convention n'aura pas été signée.

ARTICLE 36.

Les adhésions seront notifiées par écrit au Conseil fédéral suisse et produiront leurs effets six mois après la date à laquelle elles lui seront parvenues.

Au cas où, en temps de guerre, un belligérant ne serait pas partie à la Convention, ses dispositions demeureront néanmoins obligatoires entre tous les belligérants qui y participent.

ARTICLE 26.

Les commandants en chef des armées belligérantes auront à pourvoir aux détails d'exécution des articles précédents, ainsi qu'aux cas non prévus, d'après les instructions de leurs Gouvernements respectifs et conformément aux principes généraux de la présente Convention.

ARTICLE 27.

Les Hautes Parties Contractantes prendront les mesures nécessaires pour instruire leurs troupes, et spécialement le personnel protégé, des dispositions de la présente Convention et pour les porter à la connaissance des populations.

CHAPITRE VIII.

DE LA RÉPRESSION DES ABUS ET DES
INFRACTIONS.

ARTICLE 28.

Les Gouvernements des Hautes Parties Contractantes, dont la législation ne serait pas dès à présent suffisante, prendront ou proposeront à leurs législatures les mesures nécessaires pour empêcher en tout temps :

a) l'emploi, par des particuliers ou par des sociétés autres que celles y ayant droit en vertu de la présente Convention, de l'emblème ou de la dénomination de *croix rouge* ou de *croix de Genève*, de même que de tout signe et de toute dénomination constituant une imitation, que cet emploi ait lieu dans un but commercial ou dans tout autre but;

b) en raison de l'hommage rendu à la Suisse par l'adoption des couleurs fédérales interverties, l'emploi par des particuliers ou par des sociétés des armoiries de la Confédération Suisse ou de signes constituant une imitation, soit comme marques de fabrique ou de commerce ou comme éléments de ces marques, soit dans un but contraire à la loyauté commerciale, soit dans des conditions susceptibles de blesser le sentiment national suisse.

L'interdiction prévue sous lettre a) de l'emploi des signes ou dénominations constituant une imitation de l'emblème ou de la dénomination de *croix rouge* ou de *croix de Genève*, ainsi que l'interdiction prévue sous lettre b) de l'emploi des armoiries de la Confédération Suisse ou de signes constituant une imitation produira son effet à partir de l'époque déterminée par chaque législation et, au plus tard, cinq ans après la mise en vigueur de la présente Convention. Dès cette mise en vigueur, il ne sera plus licite de prendre une marque de fabrique ou de commerce contraire à ces interdictions.

ARTICLE 29.

Les Gouvernements des Hautes Parties Contractantes prendront ou proposeront également à leurs législatures, en

qu'elle ordonne de respecter et avec le consentement de l'autorité militaire. Dans les établissements fixes, il devra et, dans les formations mobiles, il pourra être accompagné du drapeau national du belligérant dont relève la formation ou l'établissement.

Toutefois, les formations sanitaires tombées au pouvoir de l'ennemi n'arboreront que le drapeau de la Convention, aussi longtemps qu'elles se trouveront dans cette situation.

Les belligérants prendront, en tant que les exigences militaires le permettront, les mesures nécessaires pour rendre nettement visibles aux forces ennemies terrestres, aériennes et maritimes les emblèmes distinctifs signalant les formations et les établissements sanitaires, en vue d'écartier la possibilité de toute action agressive.

ARTICLE 23.

Les formations sanitaires des pays neutres qui, dans les conditions prévues par l'article 11, auraient été autorisées à fournir leurs services devront arborer, avec le drapeau de la Convention, le drapeau national du belligérant dont elles relèvent.

Elles auront le droit, tant qu'elles prêteront leurs services à un belligérant, d'arborer également leur drapeau national.

Les dispositions du deuxième alinéa de l'article précédent leur seront applicables.

ARTICLE 24.

L'emblème de la croix rouge sur fond blanc et les mots

croix rouge ou *croix de Genève* ne pourront être employés, soit en temps de paix, soit en temps de guerre, que pour protéger ou désigner les formations et les établissements sanitaires, le personnel et le matériel protégés par la Convention.

Il en sera de même, en ce qui concerne les emblèmes visés à l'article 19, alinéa 2, pour les pays qui les emploient.

D'autre part, les sociétés de secours volontaires visées à l'article 10 pourront faire usage, conformément à la législation nationale, de l'emblème distinctif pour leur activité humanitaire en temps de paix.

A titre exceptionnel et avec l'autorisation expresse de l'une des sociétés nationales de la Croix-Rouge (Croissant-Rouge, Lion et Soleil-Rouges), il pourra être fait usage de l'emblème de la Convention, en temps de paix, pour marquer l'emplacement de postes de secours exclusivement réservés à donner des soins gratuits à des blessés ou à des malades.

CHAPITRE VII.

DE L'APPLICATION ET DE L'EXÉCUTION DE LA
CONVENTION.

ARTICLE 25.

Les dispositions de la présente Convention seront respectées par les Hautes Parties Contractantes en toutes circonstances.

postes médicaux de triage, ainsi que, d'une manière générale, de tout territoire ennemi ou occupé par l'ennemi sera interdit.

Les appareils sanitaires aériens devront obéir à toute sommation d'atterrir.

En cas d'atterrissage ainsi imposé ou fortuit sur territoire ennemi ou occupé par l'ennemi, les blessés et les malades, de même que le personnel et le matériel sanitaires, y compris l'appareil aérien, demeureront au bénéfice des dispositions de la présente Convention.

Le pilote, les manœuvres et les opérateurs de télégraphie sans fil (T. S. F.) capturés seront rendus, à la condition qu'ils ne soient plus utilisés, jusqu'à la fin des hostilités, que dans le service sanitaire.

CHAPITRE VI.

DU SIGNE DISTINCTIF.

ARTICLE 19.

Par hommage pour la Suisse, le signe héraldique de la croix rouge sur fond blanc, formé par interversion des couleurs fédérales, est maintenu comme emblème et signe distinctif du service sanitaire des armées.

Toutefois, pour les pays qui emploient déjà, à la place de la croix rouge, le croissant rouge ou le lion et le soleil rouges sur fond blanc comme signe distinctif, ces emblèmes sont également admis dans le sens de la présente Convention.

ARTICLE 20.

L'emblème figurera sur les drapeaux, les brassards, ainsi que sur tout le matériel se rattachant au service sanitaire, avec la permission de l'autorité militaire compétente.

ARTICLE 21.

Le personnel protégé en vertu des articles 9, alinéa premier, 10 et 11 portera, fixé au bras gauche, un brassard muni du signe distinctif, délivré et timbré par une autorité militaire.

Le personnel visé à l'article 9, alinéas 1 et 2, sera pourvu d'une pièce d'identité consistant, soit en une inscription dans le livret militaire, soit en un document spécial.

Les personnes visées aux articles 10 et 11 qui n'ont pas d'uniforme militaire seront munies par l'autorité militaire compétente d'un certificat d'identité, avec photographie, attestant leur qualité de sanitaire.

Les pièces d'identité devront être uniformes et du même modèle dans chaque armée.

En aucun cas, le personnel sanitaire ne pourra être privé de ses insignes, ni des pièces d'identité qui lui sont propres.

En cas de perte, il aura le droit d'en obtenir des duplicata.

ARTICLE 22.

Le drapeau distinctif de la Convention ne pourra être arboré que sur les formations et les établissements sanitaires.

ARTICLE 16.

Les bâtiments des sociétés de secours admises au bénéfice de la Convention seront considérés comme propriété privée.

Le matériel de ces sociétés, quel que soit le lieu où il pourra se trouver, sera également considéré comme propriété privée.

Le droit de réquisition reconnu aux belligérants par les lois et usages de la guerre ne s'exercera qu'en cas de nécessité urgente et une fois le sort des blessés et des malades assuré.

CHAPITRE V.
DES TRANSPORTS SANITAIRES.

ARTICLE 17.

Les véhicules aménagés pour les évacuations sanitaires circulant isolément ou en convoi seront traités comme les formations sanitaires mobiles, sauf les dispositions spéciales suivantes:

Le belligérant interceptant des véhicules de transport sanitaire, isolés ou en convoi, pourra, si les nécessités militaires l'exigent, les arrêter, disloquer le convoi, en se chargeant, dans tous les cas, des blessés et des malades qu'il contient. Il ne pourra les utiliser que dans le secteur où ils auront été interceptés et exclusivement pour des besoins

sanitaires. Ces véhicules, une fois leur mission locale terminée, devront être rendus dans les conditions prévues à l'article 14.

Le personnel militaire préposé au transport et muni à cet effet d'un mandat régulier sera renvoyé dans les conditions prévues à l'article 12 pour le personnel sanitaire, et sous réserve du dernier alinéa de l'article 18.

Tous les moyens de transport spécialement organisés pour les évacuations et le matériel d'aménagement de ces moyens de transport relevant du service de santé seront restitués conformément aux dispositions du chapitre IV.

Les moyens de transport militaires, autres que ceux du service de santé, pourront être capturés, avec leurs attelages.

Le personnel civil et tous les moyens de transport provenant de la réquisition seront soumis aux règles générales du droit des gens.

ARTICLE 18.

Les appareils aériens utilisés comme moyens de transport sanitaire jouiront de la protection de la Convention pendant le temps où ils seront exclusivement réservés à l'évacuation des blessés et des malades, au transport du personnel et du matériel sanitaires.

Ils seront peints en blanc et porteront ostensiblement le signe distinctif prévu à l'article 19, à côté des couleurs nationales, sur leurs faces inférieure et supérieure.

Sauf licence spéciale et expresse, le survol de la ligne de feu, et de la zone située en avant des grands

— 18 —

ARTICLE 11.

Une société reconnue d'un pays neutre ne pourra prêter le concours de son personnel et de ses formations sanitaires à un belligérant qu'avec l'assentiment préalable de son propre Gouvernement et l'autorisation du belligérant lui-même.

Le belligérant qui aura accepté le secours sera tenu, avant tout emploi, d'en faire la notification à l'ennemi.

ARTICLE 12.

Les personnes désignées dans les articles 9, 10 et 11 ne pourront être retenues après qu'elles seront tombées au pouvoir de la partie adverse.

Sauf accord contraire, elles seront renvoyées au belligérant dont elles relèvent dès qu'une voie sera ouverte pour leur retour et que les exigences militaires le permettront.

En attendant leur renvoi, elles continueront à remplir leurs fonctions sous la direction de la partie adverse; elles seront de préférence affectées aux soins des blessés et des malades du belligérant dont elles relèvent.

A leur départ, elles emporteront les effets, les instruments, les armes et les moyens de transport qui leur appartiennent.

ARTICLE 13.

Les belligérants assureront au personnel visé par les articles 9, 10 et 11, pendant qu'il sera en leur pouvoir, le même entretien, le même logement, les mêmes allocations et

— 19 —

la même solde qu'au personnel correspondant de leur armée.

Dès le début des hostilités, ils s'entendront au sujet de la correspondance des grades de leur personnel sanitaire.

CHAPITRE IV.

DES BATIMENTS ET DU MATÉRIEL.

ARTICLE 14.

Les formations sanitaires mobiles, quelles qu'elles soient, conserveront, si elles tombent au pouvoir de la partie adverse, leur matériel, leurs moyens de transport et leur personnel conducteur.

Toutefois, l'autorité militaire compétente aura la faculté de s'en servir pour les soins des blessés et des malades; la restitution aura lieu dans les conditions prévues pour le personnel sanitaire et, autant que possible, en même temps.

ARTICLE 15.

Les bâtiments et le matériel des établissements sanitaires fixes de l'armée demeureront soumis aux lois de la guerre, mais ne pourront être détournés de leur emploi tant qu'ils seront nécessaires aux blessés et aux malades.

Toutefois, les commandants des troupes d'opérations pourront en disposer, en cas de nécessités militaires urgentes, en assurant au préalable le sort des blessés et des malades qui y sont traités.

B-1 4 0 3

0 1 5 5

ARTICLE 7.

La protection due aux formations et établissements sanitaires cessera si l'on en use pour commettre des actes nuisibles à l'ennemi.

ARTICLE 8.

Ne seront pas considérés comme étant de nature à priver une formation ou un établissement sanitaire de la protection assurée par l'article 6 :

- 1) le fait que le personnel de la formation ou de l'établissement est armé et qu'il use de ses armes pour sa propre défense ou celle de ses blessés et de ses malades;
- 2) le fait qu'à défaut d'infirmiers armés, la formation ou l'établissement est gardé par un piquet ou des sentinelles;
- 3) le fait qu'il est trouvé dans la formation ou l'établissement des armes portatives et des munitions retirées aux blessés et aux malades et n'ayant pas encore été versées au service compétent;
- 4) le fait que du personnel et du matériel du service vétérinaire se trouvent dans la formation ou l'établissement, sans en faire partie intégrante.

CHAPITRE III.

DU PERSONNEL.

ARTICLE 9.

Le personnel exclusivement affecté à l'enlèvement, au

transport et au traitement des blessés et des malades, ainsi qu'à l'administration des formations et des établissements sanitaires, les aumôniers attachés aux armées, seront respectés et protégés en toutes circonstances. S'ils tombent entre les mains de l'ennemi, ils ne seront pas traités comme prisonniers de guerre.

Les militaires spécialement instruits pour être, le cas échéant, employés comme infirmiers ou brancardiers auxiliaires à l'enlèvement, au transport et au traitement des blessés et des malades, et munis d'une pièce d'identité, seront au bénéfice du même régime que le personnel sanitaire permanent, s'ils sont capturés pendant qu'ils remplissent ces fonctions.

ARTICLE 10.

Est assimilé au personnel visé à l'alinéa 1^{er} de l'article 9 le personnel des sociétés de secours volontaires, dûment reconnues et autorisées par leur Gouvernement qui sera employé aux mêmes fonctions que celles du personnel visé au dit alinéa, sous la réserve que le personnel de ces sociétés sera soumis aux lois et règlements militaires.

Chaque Haute Partie Contractante notifiera à l'autre, soit dès le temps de paix, soit à l'ouverture ou au cours des hostilités, en tout cas avant tout emploi effectif, les noms des sociétés qu'elle aura autorisées à prêter leur concours, sous sa responsabilité, au service sanitaire officiel de ses armées.

en faveur des prisonniers blessés ou malades et au delà des obligations existantes, telles clauses qu'ils jugeront utiles.

ARTICLE 3.

Après chaque combat, l'occupant du champ de bataille prendra des mesures pour rechercher les blessés et les morts et pour les protéger contre le pillage et les mauvais traitements.

Toutes les fois que les circonstances le permettront, un armistice local ou une interruption de feu seront convenus pour permettre l'enlèvement des blessés restés entre les lignes.

ARTICLE 4.

Les belligérants se feront connaître réciproquement, dans le plus bref délai possible, les noms des blessés, des malades et des morts recueillis ou découverts, ainsi que tous les éléments propres à les identifier.

Ils établiront et se transmettront les actes de décès.

Ils recueilleront et s'enverront également tous les objets d'un usage personnel trouvés sur les champs de bataille ou sur les morts, notamment la moitié de leur plaque d'identité, l'autre moitié devant rester attachée au cadavre.

Ils veilleront à ce que l'inhumation ou l'incinération des morts soit précédée d'un examen attentif et, si possible, médical des corps, en vue de constater la mort, d'établir l'identité et de pouvoir en rendre compte.

Ils veilleront, en outre, à ce qu'ils soient enterrés honorablement, que leurs tombes soient respectées et puissent toujours être retrouvées.

A cet effet et au début des hostilités, ils organiseront officiellement un service des tombes en vue de rendre possible des exhumations éventuelles et d'assurer l'identification des cadavres, quel que soit l'emplacement successif des tombes.

Dès la fin des hostilités, ils échangeront la liste des tombes et celle des morts ensevelis dans leurs cimetières et ailleurs.

ARTICLE 5.

L'autorité militaire pourra faire appel au zèle charitable des habitants pour recueillir et soigner, sous son contrôle, des blessés ou des malades des armées, en accordant aux personnes ayant répondu à cet appel une protection spéciale et certaines facilités.

CHAPITRE II.

DES FORMATIONS ET DES ÉTABLISSEMENTS
SANITAIRES.

ARTICLE 6.

Les formations sanitaires mobiles, c'est-à-dire celles qui sont destinées à accompagner les armées en campagne, et les établissements fixes du service de santé seront respectés et protégés par les belligérants.

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE
TCHÉCOSLOVAQUE :

S. Exc. M. Zdeněk FIERLINGER, Envoyé extraordinaire et
Ministre plénipotentiaire de Tchécoslovaquie à Berne ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE TURQUE :

S. Exc. HASSAN Bey, Vice-Président de la Grande Assemblée
nationale de Turquie, Vice-Président du Croissant-Rouge
ture,

S. Exc. NUSRET Bey, Président du Conseil d'Etat de la Ré-
publique,

Le Professeur AKIL MOUKHTAR Bey, D^r en Médecine,

Le D^r ABDULKADIR Bey, Lieutenant-Colonel, Médecin militaire,
Professeur à l'Ecole d'Application et à l'Hôpital de Gul-
hane ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE ORIENTALE
DE L'URUGUAY :

S. Exc. M. Alfredo DE CASTRO, Envoyé extraordinaire et
Ministre plénipotentiaire d'Uruguay à Berne ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DES
ÉTATS-UNIS DE VÉNÉZUÉLA :

S. Exc. M. Caracciolo PARRA-PÉREZ, Envoyé extraordinaire et
Ministre plénipotentiaire de Vénézuéla à Rome,

M. Ivan Manuel HURTADO-MACHADO, Chargé d'Affaires p. i.
de Vénézuéla à Berne ;

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins pouvoirs,
trouvés en bonne et due forme, sont convenus de ce qui suit :

CHAPITRE PREMIER.

DES BLESSÉS ET DES MALADES.

ARTICLE PREMIER.

Les militaires et les autres personnes officiellement
attachées aux armées qui seront blessés ou malades devront
être respectés et protégés en toutes circonstances ; ils seront
traités avec humanité et soignés, sans distinction de natio-
nalité, par le belligérant qui les aura en son pouvoir.

Toutefois, le belligérant, obligé d'abandonner des blessés
ou des malades à son adversaire, laissera avec eux, autant
que les exigences militaires le permettront, une partie de son
personnel et de son matériel sanitaires pour contribuer à les
soigner.

ARTICLE 2.

Sous réserve des soins à leur fournir en vertu de l'article
précédent, les blessés et les malades d'une armée tombés au
pouvoir de l'autre belligérant seront prisonniers de guerre
et les règles générales du droit des gens concernant les
prisonniers leur seront applicables.

Cependant, les belligérants resteront libres de stipuler,

M. Johan Carl DIEHL, Major-Général, Médecin Inspecteur général du Service de Santé de l'Armée, Vice-Président de la Croix-Rouge néerlandaise,

M. Jacob HARBERTS, Commandant à l'Etat-Major général, Professeur à l'Ecole supérieure de Guerre;

SA MAJESTÉ IMPÉRIALE LE SHAH DE
PERSE:

S. Exc. M. Anouchirevan Khan SEPAHBODI, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire de Perse à Berne;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE
POLOGNE:

M. Joseph Gabriel PRACKI, Colonel Médecin,

M. W. Jerzy BABECKI, Lieutenant-Colonel;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE
PORTUGAISE:

S. Exc. M. Vasco DE QUEVEDO, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire de Portugal à Berne,

M. Francisco DE CALHEIROS E MENEZES, Premier Secrétaire de Légation;

SA MAJESTÉ LE ROI DE ROUMANIE:

S. Exc. M. Michel B. BOERESCO, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire de Roumanie à Berne,

M. Eugène VERTEJANO, Colonel, Officier d'Etat-Major;

SA MAJESTÉ LE ROI DES SERBES, CROATES ET
SLOVÈNES:

S. Exc. M. Ilija CHOUMENKOVITCH, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire du Royaume des Serbes, Croates et Slovènes à Berne, Délégué permanent auprès de la Société des Nations;

SA MAJESTÉ LE ROI DE SIAM:

S. A. S. le Prince VARNAIDYA, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire de Siam à Londres;

SA MAJESTÉ LE ROI DE SUÈDE:

S. Exc. M. Karl Ivan WESTMAN, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire de Suède à Berne;

LE CONSEIL FÉDÉRAL SUISSE:

M. Paul DINICHERT, Ministre plénipotentiaire, Chef de la Division des Affaires étrangères du Département politique fédéral,

M. Carl HAUSER, Colonel des Troupes sanitaires, Médecin en Chef de l'Armée,

M. Anton ZÜBLIN, Colonel d'Infanterie en disponibilité, Avocat,

M. Roger DE LA HARPE, Lieutenant-Colonel des Troupes sanitaires, Médecin,

M. Dietrich SCHINDLER, Major de la Justice militaire, Professeur de Droit international à l'Université de Zurich;

M. Sophocle VENIZELOS, Lieutenant-Colonel, Attaché militaire
près la Légation de Grèce à Paris;

SON ALTESSE SÉRÉNISSIME LE GOUVERNEUR DE
LA HONGRIE :

S. Exc. M. Paul DE HEVESY, Ministre-Résident, Délégué per-
manent du Gouvernement Royal auprès de la Société des
Nations;

SA MAJESTÉ LE ROI D'ITALIE :

M. Giovanni CIRAOLO, Sénateur du Royaume;

SA MAJESTÉ L'EMPEREUR DU JAPON :

S. Exc. M. Isaburo YOSHIDA, Envoyé extraordinaire et Ministre
plénipotentiaire du Japon à Berne,

M. Sadamu SHIMOMURA, Lieutenant-Colonel,

M. Seizo MIURA, Capitaine de Frégate, Attaché naval près
l'Ambassade du Japon à Paris;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE
LETTONIE :

S. Exc. M. Charles DUZMANS, Envoyé extraordinaire et Ministre
plénipotentiaire de Lettonie près S. M. le Roi des Serbes,
Croates et Slovènes, Délégué permanent auprès de la
Société des Nations,

S. Exc. M. Oskar VOTR, Envoyé extraordinaire et Ministre

plénipotentiaire de Lettonie en Suisse, en Allemagne, en
Hongrie et aux Pays-Bas;

SON ALTESSE ROYALE LA GRANDE-DUCHESSE DE
LUXEMBOURG :

M. Charles VERMAIRE, Consul du Grand-Duché à Genève;

LE PRÉSIDENT DES ÉTATS-UNIS DU MEXIQUE :

S. Exc. M. Francisco CASTILLO NÁJERA, Général Médecin,
Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire du
Mexique à Bruxelles;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE
NICARAGUA :

M. Antoine SOTTILE, D^r en Droit, Délégué permanent de
Nicaragua auprès de la Société des Nations;

SA MAJESTÉ LE ROI DE NORVÈGE :

S. Exc. M. Johannes IRGENS, Envoyé extraordinaire et Ministre
plénipotentiaire de Norvège à Berne, Rome et Athènes,

M. Jens Christian MEINICH, Commandant d'Infanterie, Secrétaire
général de la Croix-Rouge norvégienne;

SA MAJESTÉ LA REINE DES PAYS-BAS :

S. Exc. M. Willem Isaac DOUDE VAN TROOSTWIJK, Envoyé
extraordinaire et Ministre plénipotentiaire des Pays-Bas à
Berne,

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE CHINE :

M. Chi Yung HSIAO, Chargé d'Affaires p. i. de Chine à Berne ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE
COLOMBIE :

S. Exc. Francisco José DE URRUTIA, Envoyé extraordinaire et
Ministre plénipotentiaire de Colombie à Berne ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE CUBA :

S. Exc. M. Carlos DE ARMENTEROS Y DE CARDENAS, Envoyé
extraordinaire et Ministre plénipotentiaire de Cuba à Berne,
M. Carlos BLANCO Y SANCHEZ, Secrétaire de Légation, adjoint
à la Délégation de Cuba auprès de la Société des Nations ;

SA MAJESTÉ LE ROI DE DANEMARK ET D'ISLANDE :

POUR LE DANEMARK :

S. Exc. M. Harald de SCAVENIUS, Chambellan, Envoyé extra-
ordinaire et Ministre plénipotentiaire de Danemark en
Suisse et aux Pays-Bas, ancien Ministre des Affaires
étrangères,
M. Gustav M. RASMUSSEN, Chargé d'Affaires p. i. de Dane-
mark à Berne ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DOMINICAINE :

M. Charles ACKERMANN, Consul de la République Dominicaine
à Genève ;

SA MAJESTÉ LE ROI D'ÉGYPTE :

M. Mohammed Abdel Moneim RIAD, Avocat au Contentieux
de l'Etat, Professeur de Droit international à l'Ecole
militaire du Caire,
M. Henri Wassif SIMAIKA, Attaché de la Légation Royale
d'Égypte à Rome ;

SA MAJESTÉ LE ROI D'ESPAGNE :

S. Exc. M. le Marquis de la TORREHERMOSA, Envoyé extra-
ordinaire et Ministre plénipotentiaire d'Espagne à Berne ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE D'ESTONIE :

M. Hans LEESMENT, D^r en Médecine, Président de la Croix-
Rouge estonienne ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE FINLANDE :

M. A. E. MARJOLA, Lieutenant-Colonel, Attaché militaire près
la Légation de Finlande à Paris ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE FRANÇAISE :

S. Exc. M. Henri Chassain de MARCILLY, Ambassadeur de
France à Berne,
M. Jean DU SAULT, Conseiller de l'Ambassade de France à
Berne ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE
HELLÉNIQUE :

M. Raphael RAPIHAEL, Chargé d'Affaires p. i. de Grèce à Berne,

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DES ÉTATS-
UNIS DU BRÉSIL :

S. Exc. M. Raoul de RIO-BRANCO, Envoyé extraordinaire et
Ministre plénipotentiaire du Brésil à Berne ;

SA MAJESTÉ LE ROI DE GRANDE-BRETAGNE, D'IR-
LANDE ET DES TERRITOIRES BRITANNIQUES AU
DELA DES MERS, EMPEREUR DES INDES :

POUR LA GRANDE-BRETAGNE ET L'IR-
LANDE DU NORD, AINSI QUE TOUTE
PARTIE DE L'EMPIRE BRITANNIQUE
NON MEMBRE SÉPARÉ DE LA SOCIÉTÉ
DES NATIONS :

Le Très Honorable Sir Horace RUMBOLD, G.C.M.G., M.V.O.,
Ambassadeur de Sa Majesté Britannique à Berlin ;

POUR LE DOMINION DU CANADA :

M. Walter Alexandre RIDDELL, Conseiller permanent du
Gouvernement canadien auprès de la Société des Nations ;

POUR LE COMMONWEALTH D'AUSTRALIE :

S. Exc. M. Claud RUSSELL, Envoyé extraordinaire et Ministre
plénipotentiaire de Sa Majesté Britannique à Berne ;

POUR LE DOMINION DE LA NOUVELLE-ZÉLANDE :

S. Exc. M. Claud RUSSELL, Envoyé extraordinaire et Ministre

plénipotentiaire de Sa Majesté Britannique à Berne ;

POUR L'UNION DE L'AFRIQUE DU SUD :

M. Eric Hendrik LOUW, Haut-Commissaire de l'Union de
l'Afrique du Sud à Londres ;

POUR L'ÉTAT LIBRE D'IRLANDE :

M. SEAN LESTER, Représentant de l'Etat Libre d'Irlande
auprès de la Société des Nations ;

POUR L'INDE :

S. Exc. M. Claud RUSSELL, Envoyé extraordinaire et Ministre
plénipotentiaire de Sa Majesté Britannique à Berne ;

SA MAJESTÉ LE ROI DES BULGARES :

M. Dimitri MIKOFF, Chargé d'Affaires de Bulgarie à Berne,
Représentant permanent du Gouvernement bulgare auprès
de la Société des Nations,

M. Stéphane N. LAFTCHIEFF, Membre du Conseil d'Administra-
tion de la Croix-Rouge bulgare ;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DU
CHILI :

M. Guillermo NOVOA-SEPULVEDA, Colonel, Attaché militaire
près la Légation du Chili à Berlin,

M. Dario PULGAR-ARRIAGADA, Capitaine du Service de Santé ;

HELLÉNIQUE, SON ALTESSE SÉRÉNISSIME LE GOUVERNEUR DE LA HONGRIE, SA MAJESTÉ LE ROI D'ITALIE, SA MAJESTÉ L'EMPEREUR DU JAPON, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE LETTONIE, SON ALTESSE ROYALE LA GRANDE-DUCHESSE DE LUXEMBOURG, LE PRÉSIDENT DES ÉTATS-UNIS DU MEXIQUE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE NICARAGUA, SA MAJESTÉ LE ROI DE NORVÈGE, SA MAJESTÉ LA REINE DES PAYS-BAS, SA MAJESTÉ IMPÉRIALE LE SHAH DE PERSE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE POLOGNE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE PORTUGAISE, SA MAJESTÉ LE ROI DE ROUMANIE, SA MAJESTÉ LE ROI DES SERBES, CROATES ET SLOVÈNES, SA MAJESTÉ LE ROI DE SIAM, SA MAJESTÉ LE ROI DE SUÈDE, LE CONSEIL FÉDÉRAL SUISSE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE TCHÉCOSLOVAQUE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE TURQUE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE ORIENTALE DE L'URUGUAY, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DES ÉTATS-UNIS DE VÉNÉZUÉLA,

également animés du désir de diminuer autant qu'il dépend d'eux, les maux inséparables de la guerre et voulant, dans ce but, perfectionner et compléter les dispositions convenues à Genève, le 22 août 1864 et le 6 juillet 1906, pour l'amélioration du sort des blessés et des malades dans les armées en campagne,

ont résolu de conclure une nouvelle Convention à cet effet, et ont nommé pour leurs Plénipotentiaires, savoir:

LE PRÉSIDENT DU REICH ALLEMAND:

S. Exc. M. Edmund RHOMBERG, D^r en Droit, Ministre en disponibilité;

LE PRÉSIDENT DES ÉTATS-UNIS D'AMÉRIQUE:

L'Honorable Eliot WADSWORTH, ancien Secrétaire adjoint de la Trésorerie,

S. Exc. l'Honorable Hugh R. WILSON, Envoyé extraordinaire et Ministre plénipotentiaire des États-Unis d'Amérique à Berne;

LE PRÉSIDENT FÉDÉRAL DE LA RÉPUBLIQUE D'AUTRICHE:

M. Marc LEITMAIER, D^r en Droit, Conseiller ministériel à la Chancellerie fédérale, Département des Affaires étrangères;

SA MAJESTÉ LE ROI DES BELGES:

M. Paul DEMOLDER, Général Major Médecin, Commandant du Service de Santé de la 1^{re} Circonscription militaire,

M. Joseph DE RUELLE, Jurisconsulte du Ministère des Affaires étrangères;

LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE BOLIVIE:

S. Exc. M. Alberto CORTADELLAS, Ministre-Résident de Bolivie à Berne;

CONVENTION DE GENÈVE POUR L'AMÉLIORATION
DU SORT DES BLESSÉS ET DES MALADES
DANS LES ARMÉES EN CAMPAGNE
DU 27 JUILLET 1929.

LE PRÉSIDENT DU REICH ALLEMAND, LE PRÉSIDENT DES ÉTATS-UNIS D'AMÉRIQUE, LE PRÉSIDENT FÉDÉRAL DE LA RÉPUBLIQUE D'AUTRICHE, SA MAJESTÉ LE ROI DES BELGES, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE BOLIVIE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DES ÉTATS-UNIS DU BRÉSIL, SA MAJESTÉ LE ROI DE GRANDE-BRETAGNE, D'IRLANDE ET DES TERRITOIRES BRITANNIQUES AU DELA DES MERS, EMPEREUR DES INDES, SA MAJESTÉ LE ROI DES BULGARES, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DU CHILI, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE CHINE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE COLOMBIE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE CUBA, SA MAJESTÉ LE ROI DE DANEMARK ET D'ISLANDE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DOMINICAINE, SA MAJESTÉ LE ROI D'ÉGYPTE, SA MAJESTÉ LE ROI D'ESPAGNE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE D'ESTONIE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE DE FINLANDE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE FRANÇAISE, LE PRÉSIDENT DE LA RÉPUBLIQUE

B-1403

0175

CONVENTION DE GENÈVE
POUR
L'AMÉLIORATION DU SORT DES BLESSÉS
ET DES MALADES
DANS LES ARMÉES EN CAMPAGNE

DU 27 JUILLET 1929.

B-1403

0175

参照

戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ
状態改善ニ關スル條約新舊對照表

B-1403

0100

戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ關スル
條約新舊對照表

(註、一九二九年ノ條約中傍線ヲ附シタル部分ハ一九〇六年ノ條約ノ對當條文ニ對スル修正又ハ追加セラレタルモノナルコトヲ示ス、又一九〇六年ノ條約中傍線ヲ附シタル部分ハ一九二九年ノ條約ノ對當條文ニ於テハ削除セラレ又ハ重大ナル字句ノ修正アリタルモノナルコトヲ示ス)

<p>一九〇六年七月六日ノ條約</p>	<p>一九二九年七月二十七日ノ條約</p>
<p>第一章 傷者及病者 第一條 軍人及公務上軍隊ニ附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ國籍ノ如何ヲ問ハズ之ヲ其ノ權内ニ收容シタル交戦者ニ於テ尊重看護スヘキモノトス</p>	<p>第一章 傷者及病者 第一條 軍人及公ニ軍隊ニ附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ如何ナル場合ニ於テモ尊重且保護セラルベシ右ノ軍人及人員ハ國籍ノ如何ヲ問ハズ之ヲ自己ノ權内ニ收容シタル交戦者ニ依リ博愛ノ心ヲ以テ待遇セラレ且看護セラルベシ</p>



但シ病者及傷者ヲ敵ニ遺棄スルノ已ムヲ得サルニ至リタル交戦者ハ軍事上ノ状況ノ許ス限り其ノ看護ヲ補助セシメムカ爲衛生部員及衛生材料ノ一部ヲ病者傷者ト共ニ遺留スヘシ

第二條

交戦者一方ノ傷者又ハ病者ニシテ他ノ交戦者ノ權内ニ陥リタル者ハ前條ニ依リテ看護ヲ享クルノ外俘虜ト爲リ俘虜ニ關スル國際公法ノ一般規則ヲ適用セララルモノトス但シ交戦者ハ俘虜タル傷者病者ニ關シ有益ト認ムヘキ特例又ハ殊遇ノ條項ヲ相互ニ協定スルノ自由ヲ有シ殊ニ左ノ事項ニ付協定ヲ爲スノ權能ヲ有ス

尤モ傷者又ハ病者ヲ敵ニ遺棄スルノ已ムヲ得ザルニ至リタル交戦者ハ軍事上ノ要求ノ許ス限り其ノ看護ニ寄與スル爲其ノ衛生人員及衛生材料ノ一部ヲ傷者病者ト共ニ遺留スベシ

第二條

一方ノ軍隊ノ傷者及病者ニシテ他方ノ交戦者ノ權内ニ陥リタルモノハ前條ニ依リテ看護ヲ享クルノ外俘虜ト爲リ俘虜ニ關スル國際公法ノ一般規則ヲ適用セララルベシ尤モ交戦者ハ傷者又ハ病者タル俘虜ノ爲ニ且現存ノ義務以外ニ其ノ有益ト認ムル條項ヲ定ムルコトヲ得ベシ

一 戰鬪後戰場ニ遺棄セラレタル傷者ヲ互ニ引渡スコト

一 交戦者カ俘虜トシテ抑留シ置クヲ欲セサル傷者又ハ病者ヲ輸送ニ堪フルニ至リタル後又ハ全治後其ノ本國ニ送還スルコト

一 中立國ノ承諾ヲ得タル上戰爭ノ終了迄留置スル條件ヲ以テ對戰國ノ傷者又ハ病者ヲ同中立國ニ引渡スコト

第三條

各戰鬪後戰場ノ占領者ハ傷者ヲ搜索シ且掠奪及虐待ニ對シ傷者及死者ヲ保護スルノ措置ヲ執ルヘシ

第三條

各戰鬪後戰場ノ占領者ハ傷者及死者ヲ搜索シ且掠奪及虐待ニ對シ之ヲ保護スルノ措置ヲ執ルベシ
戰線間ニ殘留スル傷者ヲ收容スルコトヲ得

シムル爲事情ノ許ストキハ其ノ都度局地的
休戦又ハ射撃中止ヲ協定スベシ

四

右占領者ハ死者ノ埋葬又ハ火葬カ其ノ死體
ヲ綿密ニ検査シタル上ニテ行ハルルコトニ
注意スヘシ(改正條約第四條第四項參照)

第四條

各交戦者ハ死者ニ付發見シタル軍隊ノ認識
票又ハ身分ヲ證明スヘキ記號及集收シタル
傷者又ハ病者ノ人名簿ヲ成ルヘク速ニ其ノ
本國官憲又ハ所屬陸軍官憲ニ送付スヘシ
交戦者ハ互ニ其ノ權内ニ在ル傷者及病者ノ
留置、移動並入院及死亡ニ關スルコトヲ知
照スヘク又戰場ニ於テ發見セラレ或ハ衛生
上ノ固定營造物及移動機關内ニテ死亡シタ

第四條

交戦者ハ收容又ハ發見セラレタル傷者、病
者及死者ノ姓名並ニ之ヲ認識スルニ足ル一
切ノ資料ヲ成ルベク速ニ相互ニ通知スベシ
交戦者ハ死亡證明書ヲ作成シ且交換スベシ
交戦者ハ又戰場ニ於テ又ハ死者ヨリ發見セ
ラレタル一切ノ個人的用品特ニ認識票ノ半
分(他ノ半分ハ屍體ニ附ケ置カルベキモノ
トス)ヲ蒐集シ且交換スベシ

ル傷者又ハ病者ノ遺留ニ係ル一切ノ私用
品、有價物、書狀等ヲ利害關係者ニ其ノ所屬
國官憲ヲシテ傳送セシムル爲集收スヘシ
右占領者ハ死者ノ埋葬又ハ火葬カ其ノ死體
ヲ綿密ニ検査シタル上ニ於テ行ハルルコト
ニ注意スヘシ(第三條第二項)

交戦者ハ死者ノ土葬又ハ火葬ニ先チ死亡ヲ
確認シ死者ヲ認識シ且之ガ報告ヲ爲シ得ル
爲慎重ナル且出來得レバ醫學的ノ身體検査
ノ行ハルル様注意スベシ
交戦者ハ尙死者ガ敬意ヲ以テ埋葬セラレ、
其ノ墳墓ガ尊敬セラレ且常ニ見出サレ得ル
様注意スベシ
交戦者ハ之ガ爲戰爭開始ニ際シ墳墓ノ場所
ノ移轉如何ニ拘ラズ後日爲スコトアルベ
キ屍體發掘ヲ可能ナラシメ且屍體ヲ認識シ
得シムル目的ヲ以テ墳墓係ヲ公ニ組織スベ

五

交戦者ハ戦争ノ終リタルトキハ直ニ墳墓表
竝ニ其ノ墓地及他ノ場所ニ埋葬セラレタル
死者ノ表ヲ交換スベシ

第五條

陸軍官憲ハ住民ノ慈惠心ニ訴ヘ之ニ應シタ
ル者ニハ特別ノ保護及一定ノ特典ヲ與ヘ其
ノ監督ノ下ニ兩軍ノ傷者病者ヲ收容看護セ
シムルコトヲ得ヘシ

第二章 衛生上ノ移動機關及
固定營造物

第六條

衛生上ノ移動機關(即チ戰地軍隊ニ隨伴ス
ヘキモノ)及衛生勤務ノ固定營造物ハ兩交

交戦者ハ戦争ノ終リタルトキハ直ニ墳墓表
竝ニ其ノ墓地及他ノ場所ニ埋葬セラレタル
死者ノ表ヲ交換スベシ

第五條

軍事官憲ハ其ノ監督ノ下ニ兩軍ノ傷者又ハ
病者ヲ收容看護セシムル爲住民ノ慈惠心ニ
訴フルコトヲ得ベク之ニ應ジタル者ニハ特
別ノ保護及一定ノ便宜ヲ與フルモノトス

第二章 衛生上ノ部隊及營造
物

第六條

移動衛生部隊即チ戰地軍隊ニ隨伴スベキモ
ノ及衛生機關ノ固定營造物ハ交戦者ニ於テ

戦者ニ於テ之ヲ尊重保護スヘシ

第七條

衛生上ノ移動機關及固定營造物カ害敵行爲
ノ爲ニ使用セララルトキハ其ノ保護ヲ失フ
ヘシ

第八條

左記ノ事項ハ衛生上ノ移動機關又ハ固定營
造物カ第六條ニ依リ保障セラレタル保護ヲ
喪失スヘキ性質ノモノト看做サス

- 第一 移動機關又ハ固定營造物ノ人員カ
武装シ其ノ武器ヲ自己又ハ傷者病者ノ
防衛ノ爲ニ使用スルノ事實
- 第二 武装看護人ノ在ラサルニ當リ正式
ノ命令ヲ携帶スル歩哨又ハ衛兵ヲシテ

之ヲ尊重保護スベシ

第七條

衛生上ノ部隊及營造物カ害敵行爲ノ爲ニ使
用セララルトキハ其ノ保護ヲ失フベシ

第八條

左記ノ事實ハ衛生上ノ部隊又ハ營造物カ第
六條ニ依リ保障セラレタル保護ヲ喪失スベ
キ性質ノモノト看做サレザルベシ

- (一) 部隊又ハ營造物ノ人員カ武装シ其ノ武
器ヲ自己又ハ傷者及病者ノ防衛ノ爲ニ使
用スルノ事實
- (二) 武装看護人ノ在ラザルニ當リ歩哨又ハ
衛兵ヲシテ部隊又ハ營造物ヲ守衛セシム

移動機關又ハ固定營造物ヲ守衛セシムルノ事實

第三 傷者ヨリ取上ケタルモ未ダ所轄部署ニ引渡サレサル武器及藥筒カ移動機關又ハ固定營造物内ニ發見セラレタルノ事實

第三章 人員

第九條

傷者及病者ノ收容、輸送及治療並衛生上ノ移動機關及固定營造物ノ事務ニ專ラ従事スル人員、軍隊附屬ノ教法者ハ如何ナル場合ニ於テモ尊重保護セラルヘク敵手ニ陥リタ

ルノ事實

(三) 傷者及病者ヨリ取上ゲタルモ未ダ所轄機關ニ引渡サレザル携帶武器及彈藥ガ部隊又ハ營造物内ニ發見セラレタルノ事實
(四) 獸醫機關ノ人員及材料ガ部隊又ハ營造物ノ一部分ヲ構成セズシテ其ノ内ニ在ルノ事實

第三章 人員

第九條

傷者及病者ノ收容、輸送及治療並ニ衛生上ノ部隊及營造物ノ事務ニ專ラ従事スル人員並ニ軍隊附屬ノ教法者ハ如何ナル場合ニ於テモ尊重且保護セラルベシ此等ノ者ハ敵手

ルトキト雖俘虜トシテ取扱ハルルコトナカルヘシ
前項ノ規定ハ第八條第二號ノ場合ニ於テ衛生上ノ移動機關及固定營造物ノ守衛人員ニモ之ヲ適用ス

ニ陥リタルルトキト雖モ俘虜トシテ取扱ハルルコトナカルベシ
軍人ニシテ場合ニ依リ補助看護人又ハ補助擔架兵トシテ傷者及病者ノ收容、輸送及治療ニ使用セララルル爲特別ニ教育セラレ且認識證明書ヲ携帶スルモノハ此等ノ職務ノ遂行中捕ヘラレタルトキハ常置衛生人員ト同一ノ制度ノ利益ヲ享有スベシ

第十條

本國政府カ適法ニ認可シタル篤志救恤協會ノ人員ニシテ軍隊衛生上ノ移動機關及固定

第十條

本國政府ガ適法ニ認可シタル篤志救恤協會ノ人員ニシテ第九條第一項ニ掲ゲタル人

營造物ニ使用セラルル者ハ前條ニ掲ケタル人員ト同一ニ看做サルヘシ但シ該人員ハ陸軍ノ法律規則ニ服従スヘキモノトス

各國ハ其ノ責任ノ下ニ在リテ軍隊ノ衛生勤務ニ補助ヲ與フルコトヲ許可シタル協會ノ名稱ヲ平時ヨリ又ハ戰爭開始ノ際若ハ戰爭中何レノ場合ニモ之ヲ有效ニ使用スルニ先テ他ノ一方國ニ通告スルヲ要ス

第十一條

中立國ニ於テ認可セラレタル協會ハ豫メ其ノ國政府ノ承認ヲ得タル上當該交戦者ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ其ノ人員及衛生上ノ移動機關ヲシテ同交戦者ニ補助ヲ與ヘシム

員ト同一ノ職務ニ使用セラルルモノハ該項ニ掲ゲタル人員ト同一ニ看做サルベシ但シ該協會ノ人員ハ軍ノ法令ニ服従スベキモノトス

各締約國ハ其ノ責任ノ下ニ自國軍隊ノ公ノ衛生勤務ニ補助ヲ與フルコトヲ許可シタル協會ノ名稱ヲ平時ヨリ又ハ戰爭開始ノ際若ハ戰爭中何レノ場合ニモ之ヲ實際ニ使用スルニ先テ他ノ締約國ニ通告スベシ

第十一條

中立國ニ於テ認可セラレタル協會ハ豫メ自國政府ノ承認ヲ得且交戦者ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ人員及衛生部隊ヲシテ當該交戦者ニ援助ヲ與ヘシムルコトヲ得ザルベシ

ルコトヲ得ス

右救護ヲ承諾シタル交戦者ハ其ノ使用ニ先テ之ヲ敵國ニ通告スヘシ

第十二條

第九條、第十條及第十一條ニ掲ケタル人員ハ敵ノ權内ニ陥リタル後モ其ノ指揮ノ下ニ在リテ引續キ各自ノ職務ヲ執行スヘシ
前項人員ノ補助カ既ニ必要ナキニ至リタルトキハ軍事上ノ必要ト相容ルル時期及通路ニ從ヒ之ヲ所屬軍隊又ハ其ノ本國ニ送還スヘシ

右救護ヲ承諾シタル交戦者ハ其ノ使用ニ先テ之ヲ敵ニ通告スベシ

第十二條

第九條、第十條及第十一條ニ掲ケタル人員ハ相手方ノ權内ニ陥リタル後抑留セララルヲ得ザルベシ
反對ノ合意ナキ限り右人員ハ歸路開通シ且軍事上ノ要求ガ之ヲ許スニ至リタルトキハ直ニ其ノ屬スル交戦者ニ送還セララルベシ
右人員ハ送還セララル迄相手方ノ指揮ノ下ニ在リテ引續キ各自ノ職務ヲ執行スベシ
右人員ハ成ルベク其ノ屬スル交戦者ノ傷者及病者ノ看護ニ従事セシメラルベシ

右人員ハ各自ノ私有ニ屬スル被服、器具、武器及馬匹ヲ持去ルヲ得ヘシ

第十三條

敵國ハ第九條ニ掲ケタル人員カ其ノ權内ニ在ル間自國軍隊ノ同一等級ノ者ニ給與スルト同額ノ給養及俸給ヲ之ニ支給スベシ

第四章 材料

第十四條

衛生上ノ移動機關ハ敵ノ權内ニ陥ルトキト雖其ノ輸送方法護送人員ノ如何ヲ問ハズ所屬材料ヲ保有ス同材料中ニハ鞍馬ヲモ包含

右人員ハ其ノ出發ニ際シ其ノ所有スル被服、器具、武器及輸送機關ヲ持去ルベシ

第十三條

交戦者ハ第九條、第十條及第十一條ニ掲ゲタル人員ガ其ノ權内ニ在ル間自國軍隊ノ對當人員ニ對スルト同一ノ給養、宿舍、手當及給與ヲ之ニ支給スベシ

交戦者ハ戰爭開始後直ニ其ノ衛生人員ノ階級ノ對當關係ニ付協定スベシ

第四章 建物及材料

第十四條

移動衛生部隊ハ其ノ何タルヲ問ハズ相手方ノ權内ニ陥ルトキト雖モ其ノ材料、輸送機關及輸送係員ヲ保有スベシ

ナルモノトス

但シ所轄陸軍官憲ハ傷者及病者看護ノ爲該材料ヲ使用スルノ權能ヲ有スヘク其ノ材料ハ衛生人員ノ爲ニ定メラレタル條件ニ依リ且成ルヘク衛生人員ト同時ニ之ヲ還付スベシ

第十五條

固定營造物ノ建物及材料ハ戰爭ノ法規ニ從フ然レトモ傷者及病者ノ爲ニ必要ナル間ハ其ノ用途ヲ他ニ轉スルコトヲ得ス

但シ作戰部隊ノ指揮官ハ重大ナル軍事上ノ必要アルトキハ豫メ固定營造物内ニ在ル傷者及病者ノ安全ヲ謀リタル後便宜之ヲ處分

尤モ權限アル軍事官憲ハ傷者及病者看護ノ爲該材料、輸送機關及輸送係員ヲ使用スルノ權能ヲ有スベク其ノ返還ハ衛生人員ノ爲ニ定メラレタル條件ニ於テ且成ルベク之ト同時ニ爲サルベシ

第十五條

軍隊ノ衛生上ノ固定營造物ノ建物及材料ハ戰爭ノ法規ニ從ラベシ然レドモ傷者及病者ノ爲ニ必要ナル間ハ其ノ用途ヲ他ニ轉ズルコトヲ得ザルベシ

尤モ作戰部隊ノ指揮官ハ緊急ナル軍事上ノ必要アルトキハ豫メ固定營造物内ニ於テ治療セラルル傷者及病者ノ安全ヲ圖リタル後

スルコトヲ得ヘシ

第十六條

本條約ニ定メタル條件ニ從ヒ條約上ノ利益ヲ享有スル救恤協會ノ材料ハ私有ノ財産ト看做サレ之カ爲戰爭ノ法規慣例ニ基キ交戦者ニ屬スル徵發權ニ依ルヲ除クノ外如何ナル場合ニ於テモ尊重セラルヘシ

第五章 後送機關

第十七條

後送機關ハ左ノ特別規定ニ依ルノ外衛生上ノ移動機關トシテ取扱ハルヘシ

之ヲ處分スルコトヲ得ベシ

第十六條

本條約ノ利益ヲ享有スル救恤協會ノ建物ハ私有財産ト看做サルベシ
右協會ノ材料ハ其ノ所在ノ如何ヲ問ハズ同様ニ私有財産ト看做サルベシ

第五章 衛生上ノ輸送機關

第十七條

衛生上ノ後送ノ爲裝備セラレタル車輛ニシテ單獨ニ又ハ隊ヲ爲シテ移動スルモノハ左

ノ特別規定ニ依ルノ外移動衛生部隊トシテ取扱ハルベシ
單獨ノ又ハ隊ヲ爲セル衛生上ノ輸送車輛ヲ遮斷スル交戦者ハ軍事上ノ必要アルトキハ

第一 後送機關ヲ遮斷スル交戦者カ軍事上ノ必要アル場合ニハ該後送機關ノ收容シタル病者及傷者ヲ引受ケタル後之ヲ解カシムルコトヲ得ヘシ

第二 前號ノ場合ニ於テ第十二條ニ規定セラレタル衛生人員送還ノ義務ハ正式

一切ノ場合ニ於テ該車輛ノ收容シタル傷者又ハ病者ヲ引取リタル後之ヲ停止シ隊ヲ解クコトヲ得ベシ交戦者ハ該車輛ガ遮斷セラレタル戰區ニ於テ且衛生上ノ必要ノ爲ニノミ之ヲ利用スルコトヲ得ベシ該車輛ハ其ノ局地的任務ノ終了シタルトキハ第十四條ニ規定セラレタル條件ニ於テ返還セララルベシ

輸送ニ任ジ且之ガ爲正規ノ命令書ヲ携帯スル軍人軍屬ハ衛生人員ニ付第十二條ニ規定

ノ命令ヲ携帶シテ輸送又ハ後送機關ノ
 護衛ニ任スル一切ノ軍人專屬ニ及フヘ
 シ
 第十四條ニ規定シタル衛生材料還付ノ義務
 ハ特ニ後送ノ爲ニ組織セラレタル鐵道列車
 及内地航行ノ船舶並衛生勤務ニ屬スル普通
 ノ車輛、列車及船舶ノ裝置材料ニ適用セラ
 ルヘシ
 衛生勤務ニ屬セザル軍隊ノ車輛ハ其ノ挽馬
 ト共ニ捕獲スルヲ得ヘシ
 普通人民及徵發ニ依リテ得タル各種ノ輸送
 物件ハ國際公法ノ通則ニ從フヘキモノトス
 同物件中ニハ後送ノ爲ニ使用セラルル鐵道
 材料及船舶ヲモ包含スルモノトス

セラレタル條件ニ於テ且第十八條末項ノ留
 保ノ下ニ送還セラルベシ
 後送ノ爲ニ特ニ組織セラレタル一切ノ輸送
 機關及右輸送機關ノ裝備材料ニシテ衛生機
 關ニ屬スルモノハ第四章ノ規定ニ從ヒ返還
 セラルベシ
 衛生機關ニ屬セザル軍隊ノ輸送機關ハ其ノ
 繋屬ト共ニ之ヲ捕獲スルモトヲ得ベシ
 徵發ニ由レル普通人及一切ノ輸送機關ハ國
 際法ノ一般規則ニ從フベシ

第十八條

衛生上ノ輸送機關トシテ使用セラルル航空
 機ハ專ラ傷者及病者ノ後送並ニ衛生人員及
 衛生材料ノ輸送ニ充テラルル間本條約ノ保
 護ヲ享有スベシ
 右航空機ハ白色ニ塗ラルベク且下面及上面
 ニ國色章ノ傍ニ第十九條ニ規定セラレタル
 殊別記章ヲ明瞭ニ附セラルベシ
 特別ノ且明白ナル許可アル場合ヲ除キ戰線
 及野戰病院ノ前方ニ存スル地帶並ニ一般ニ
 敵ノ一切ノ領域又ハ敵ニ依リ占領セラレタ
 ル一切ノ領域ノ上ノ飛行ハ禁止セララルベシ
 衛生航空機ハ著陸ノ要求アルトキハ必ず之
 ニ從フコトヲ要ス



敵ノ領域又ハ敵ニ依リ占領セラレタル領域
上ニ於ケル右強制的ノ又ハ偶然ノ著陸ノ場
合ニハ傷者及病者並ニ衛生人員及衛生材料
(航空機ヲ含ム)ハ引續キ本條約ノ規定ノ利
益ヲ享有スベシ
捕ヘラレタル操縦者、運航従事者及無線電
信技術者ハ戰爭ノ終了スル迄衛生勤務ニノ
ミ使用セララルコトヲ條件トシテ送還セラ
ルベシ

第六章 殊別記章

第十九條

瑞西國ニ對シ敬意ヲ表スル爲該聯邦國旗ノ
著色ヲ顛倒シテ作成シタル白地赤十字ノ紋
章ハ軍隊ノ衛生勤務ノ標章及殊別記章トシ

第六章 殊別記章

第十八條

瑞西國ニ對シ敬意ヲ表スル爲該聯邦國旗ノ
著色ヲ顛倒シテ作成シタル白地赤十字ノ紋
章ハ軍隊ノ衛生勤務上ノ殊別記章トシテ維持

セラルヘシ

第十九條

前條ノ記章ハ所轄陸軍官憲ノ認許ニ依リ衛
生勤務ニ關係スル旗、臂章及一切ノ材料ニ
表出セラルヘシ

第二十條

第九條第一項、第十條及第十一條ニ依リ保
護セララルル人員ハ所轄陸軍官憲ヨリ交付シ
且其ノ印章ヲ捺シタル白地赤十字ノ臂章ヲ
左腕ニ裝著スヘク陸軍ノ衛生勤務ニ従事ス

テ維持セララルベシ

尤モ赤十字ノ代リニ白地ニ赤新月又ハ赤ノ
獅子及太陽ヲ殊別記章トシテ既ニ使用スル
諸國ニ付テハ右標章ハ本條約ノ意義ニ於テ
同様ニ許容セララルベシ

第二十條

標章ハ權限アル軍事官憲ノ認許ヲ得テ衛生
勤務ニ關係アル旗、臂章及一切ノ材料ニ表
出セラルベシ

第二十一條

第九條第一項、第十條及第十一條ニ依リ保
護セララルル人員ハ軍事官憲ヨリ交付シ且其
ノ印章ヲ捺シタル殊別記章ヲ附セル臂章ヲ
左腕ニ裝著シ置クベシ

ル人員ニシテ軍服ヲ著セサルモノハ認識證
明書ヲ併セ携帯スヘシ

第九條第一項及第二項ニ掲ゲタル人員ハ軍
隊手牒ヘノ記入又ハ特別ノ書類ヨリ成ル認
識證明書ヲ付與セラルベシ
權限アル軍事官憲ハ第十條及第十一條ニ掲
ゲタル人員ニシテ軍服ヲ有セザルモノヲシ
テ其ノ衛生人員タルノ資格ヲ證明スル寫眞
附認識證明書ヲ所持セシムベシ
認識證明書ハ各軍ニ於テ劃一的ニシテ且同
一型ノモノタルベシ
如何ナル場合ニ於テモ衛生人員ハ其ノ徽章
又ハ固有ノ認識證明書ヲ奪ハルルコトヲ得
ザルベシ
紛失ノ場合ニハ右人員ハ其ノ複本ヲ取得ス
ルノ權利ヲ有スベシ

第二十一條

本條約ニ依リテ尊重セララルル衛生上ノ移動
機關及固定營造物ニシテ陸軍官憲ノ認可ヲ
受ケタルモノニ非サレハ本條約ノ記章旗ハ
之ヲ掲揚スルコトヲ得ス右記章旗ハ該機關
又ハ營造物所屬交戦者ノ國旗ト共ニ掲揚ス
ヘシ

但シ敵ノ權内ニ陥リタル衛生上ノ移動機關
ハ其ノ地位ノ繼續スル間赤十字旗ノ外他ノ
國旗ヲ掲揚スヘカラス

第二十二條

本條約ノ殊別旗ハ本條約ニ依リテ尊重セラ
ラルル衛生上ノ部隊及營造物ニシテ軍事官憲
ノ認許ヲ受ケタルモノニ非ザレバ之ヲ掲揚
スルコトヲ得ザルベシ固定營造物ニ於テハ
右殊別旗ト共ニ該營造物ノ屬スル交戦者ノ
國旗ヲ掲揚スルコトヲ要スベク移動部隊ニ
於テハ該部隊ノ屬スル交戦者ノ國旗ヲ之ト
共ニ掲揚スルコトヲ得ベシ
尤モ敵ノ權内ニ陥リタル衛生部隊ハ右權内
ニ在ル限リ本條約ノ殊別旗ノミヲ掲揚スベ
シ
交戦者ハ一切ノ攻撃的行動ノ可能性ヲ除去
スル目的ヲ以テ、衛生上ノ部隊及營造物ヲ

表示スル殊別標章ヲ陸上、空中及海上ノ敵軍ニ明瞭ニ認識セシムル爲必要ナル措置ヲ軍事上ノ要求ノ許ス限リ執ルベシ

第二十三條

第十一條ニ規定シタル條件ニ於テ其ノ役務ヲ提供スルノ許可ヲ得タル中立國ノ衛生部隊ハ本條約ノ殊別旗ト共ニ其ノ屬スル交戦者ノ國旗ヲ掲揚スルコトヲ要ス

右部隊ハ交戦者ニ役務ヲ提供スル限リ同様ニ其ノ自國國旗ヲ掲揚スルノ權利ヲ有スベシ

前條第二項ノ規定ハ右部隊ニ適用セラルベシ

第二十四條

前條第二項ノ規定ハ前項ノ衛生上ノ移動機關ニモ之ヲ適用ス

第二十三條

白地ニ赤十字ノ記章及赤十字又ハ「ジュネーブ」十字ナル稱號ハ平時ト戰時トヲ問ハズ本條約ニ依リテ保護セラルル衛生上ノ移動機關、固定營造物、人員及材料ヲ保護シ又ハ標榜スル爲ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

白地赤十字ノ標章及赤十字又ハ「ジュネーブ」十字ノ語ハ平時ト戰時トヲ問ハズ本條約ニ依リテ保護セラルル衛生上ノ部隊及營造物並ニ人員及材料ヲ保護シ又ハ表示スル爲ニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ザルベシ

第十九條第二項ニ掲グル標章ニ關シ之ヲ使用スル諸國ニ對シテ亦同様ナルベシ
尙第十條ニ掲グル篤志救恤協會ハ平時ニ於ケル博愛事業ノ爲殊別標章ヲ國內法令ニ從ヒ使用スルコトヲ得ベシ
特例トシテ且國ノ赤十字（赤新月又ハ赤ノ獅子及太陽）社ソ一ノ明白ナル許可ヲ得タルトキハ傷者又ハ病者ノ無料看護ニ専ラ充テラルル救護所ノ場所ヲ指示スル爲平時ニ

第七章 條約ノ適用及執行

第二十四條

締約國中ノ二國又ハ數國間ニ戰爭アル場合ニ限リ締盟國ハ本條約ノ規定ヲ遵守スルノ義務アルモノトス此ノ規定ヲ遵守スルノ義務ハ交戰國ノ一カ本條約ノ記名者ナラサル時ヨリ消滅スルモノトス

第二十五條

交戰軍ノ司令長官ハ各其ノ本國政府ノ訓令ニ從ヒ且本條約ノ綱領ニ準據シ前諸條ノ執行ニ關スル細目及規定漏ノ事項ヲ補足處理スヘシ

第二十六條

於テ本條約ノ標章ヲ使用スルコトヲ得ベシ

第七章 條約ノ適用及執行

第二十五條

本條約ノ規定ハ如何ナル場合ニ於テモ締約國ニ依リ尊重セラレベシ
戰時ニ於テ交戰者ノ一ガ條約ノ當事者タラザル場合ト雖モ條約ノ規定ハ條約ニ參加セル一切ノ交戰者ノ間ニ拘束力ヲ有スベシ

第二十六條

交戰軍ノ總指揮官ハ各其ノ本國政府ノ訓令ニ從ヒ且本條約ノ一般原則ニ準據シ前諸條ノ執行ニ關スル細目及規定漏ノ事項ヲ補足處理スベシ

第二十七條

記名國政府ハ本條約ノ規定ヲ其ノ軍隊及特ニ保護セララルル人員ニ教示シ且之ヲ國民ニ知悉セシムルカ爲必要ナル手段ヲ執ルヘシ

第八章 濫用及違反ノ禁制

第二十七條

記名國政府ニシテ其ノ現行法制完全ナラザルモノハ本條約ニ依リ權利ヲ享有スルモノ以外ノ個人又ハ協會ニ於テ「赤十字」又ハ「ジェネヴァ」十字ナル記章又ハ名稱ヲ使用シ就中商業上ノ目的ヲ以テ製造標又ハ商標ノ方法ニ依リ之ヲ用キルコトヲ常ニ防止セムカ爲必要ナル手段ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法府ニ提案スヘキコトヲ約ス

締約國ハ本條約ノ規定ヲ其ノ軍隊及特ニ保護セララルル人員ニ教示スル爲及之ヲ人民ニ知悉セシムルカ爲必要ナル措置ヲ執ルベシ

第八章 濫用及違反ノ禁制

第二十八條

締約國政府ニシテ現ニ其ノ法令十分ナラザルモノハ左記事項ヲ常ニ防止スルニ必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法機關ニ提案スベシ

(イ) 商業上ノ目的ヲ以テスルト他ノ如何ナル目的ヲ以テスルトト問ハズ個人又ハ本

條約ニ依リ使用ノ權利ヲ有スルモノ以外ノ團體ニ依ル赤十字又ハ「ジェネヴァ」十字ノ標章又ハ名稱並ニ之ガ模倣ト爲ル

前項ニ規定シタル記章又ハ名稱ノ使用禁止ハ各國ノ法制ニ依リテ定メラレタル時期ヨリ其ノ效力ヲ生スヘク遅クトモ本條約實施後五年以內ニ其ノ效力ヲ生スヘシ本條約實

一切ノ記章及名稱ノ使用
(ロ) 瑞西聯邦國旗ノ著色ノ顛倒セラレタルモノノ採用ニ依リ同國ニ對シ敬意ノ表セラレタルニ鑑ミ商業上ノ誠實ニ反スル目的ニ於ケルト瑞西ノ國民的感情ヲ毀損スルコトアルベキ狀態ニ於ケルト同ハズ個人又ハ團體ニ依ル瑞西聯邦ノ紋章又ハ之ガ模倣ト爲ル記章ノ製造標若ハ商標又ハ右製造標若ハ商標ノ要部トシテノ使用
赤十字又ハ「ジ・ネーヅ」十字ノ標章又ハ名稱ノ模倣ト爲ル記章又ハ名稱ノ使用ノ
(イ)ニ規定セラレタル禁止及瑞西聯邦ノ紋章又ハ之ガ模倣ト爲ル記章ノ使用ノ (ロ)ニ

施後ハ同禁止ニ抵觸スル製造標又ハ商標ノ使用ヲ以テ不法トス

規定セラレタル禁止ハ各法令ニ依リ決定セラルル時期ヨリ且遅クトモ本條約ノ實施後五年ニシテ其ノ效力ヲ發生スベシ右實施後ハ右禁止ニ反スル製造標又ハ商標ヲ採用スルハ適法ナラザルベシ

第二十八條

記名國政府ニシテ其ノ陸軍刑法不完全ナル場合ニハ戰時ニ於テ軍隊ノ傷者及病者ニ對スル個人的掠奪及虐待行爲ヲ禁制シ且本條約ニ依リテ保護セラレサル軍人又ハ個人ノ爲シタル赤十字ノ記章旗及臂章ノ濫用ヲ陸軍記章ノ侵犯トシテ處罰スルニ必要ナル手段ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法府ニ提案スヘキコトヲ約ス

第二十九條

締約國政府ハ又其ノ刑法不十分ナル場合ニハ本條約ノ規定ニ反スル一切ノ行爲ヲ戰時ニ於テ禁止スルニ必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法機關ニ提案スベシ

記名國政府ハ遅クトモ本條約批准後五年以
内ニ瑞西聯邦政府ヲ經テ右禁制ニ關スル規
定ヲ互ニ相通告スヘシ

縮約國政府ハ遅クトモ本條約批准ノ時ヨリ
五年以内ニ瑞西聯邦政府ノ仲介ニ依リ右禁
止ニ關スル規定ヲ相互ニ通告スベシ

第三十條

本條約ニ對スル違反アリトノ主張アルトキ
ハ一交戰者ノ請求ニ基キ、關係當事者間ニ定
メラルベキ手續ニ從ヒ右違反ニ付審査開始
セラルベシ違反確認セラルルトキハ交戰者
ハ成ルベク速ニ違反ヲ止メ且之ヲ禁止スベ
シ

最終規定

第三十一條

本日ノ日附ヲ有スベキ本條約ハ千九百二十

總則
第二十九條乃至第三十一條(後出)
第三十二條第一項

本條約ハ千九百六年六月十一日「ジュネヅ

ア」ニ開會シタル萬國會議ニ代表者ヲ派遣
シタル諸國及該萬國會議ニ代表者ヲ派遣セ
サルモ千八百六十四年ノ條約ニ記名シタル
諸國ニ依リ本年十二月三十一日迄ニ記名セ
ラレ得ルモノトス

第二十九條

本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ
批准書ハ「ベルヌ」府ニ保管ス
各批准書ニ付キ一通ノ保管證書ヲ作り其ノ
認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ各締盟國ニ
交付スヘシ

第三十條

九年七月一日「ジュネヅ」ニ開催セラレ
タル會議ニ代表者ヲ派遣シタル一切ノ國及
該會議ニ代表者ヲ派遣セザルモ千八百六十
四年又ハ千九百六年ノ「ジュネヅ」條約
ニ參加セル國ノ名ニ於テ千九百三十年二月
一日迄ニ署名セラレ得ベシ

第三十二條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セララルベシ
批准書ハ「ベルヌ」ニ於テ寄託セララルベシ
各批准書ノ寄託ニ付調書一通作成セラレ其
ノ認證謄本ハ瑞西聯邦政府ヨリ自己ノ名ニ
於テ本條約ガ署名セラレ又ハ加入ガ通告セ
ラレタル一切ノ國ノ政府ニ交付セララルベシ

第三十三條

本條約ハ各締盟國カ其ノ批准書ヲ提供シタル日ヨリ六箇月ノ後其ノ國ニ對シテ效力ヲ生スヘシ

第三十一條

正當ニ批准セラレタル本條約ハ締盟國間ノ關係ニ於テ千八百六十四年八月二十二日ノ條約ニ代ルヘキモノトス

千八百六十四年ノ條約ハ之ニ記名シタルモ本條約ヲ批准セサル諸國間ノ關係ニ付テハ引續キ效力ヲ有スヘキモノトス

第三十二條第二項前段

千九百零六年十二月三十一日迄ニ本條約ニ記

本條約ハ少クトモ二箇ノ批准書ガ寄託セラレタル後六月ニシテ實施セララルベシ
爾後本條約ハ各締約國ニ付其ノ批准書ノ寄託後六月ニシテ實施セララルベシ

第三十四條

本條約ハ締約國間ノ關係ニ於テ千八百六十四年八月二十二日及千九百零六年七月六日ノ條約ニ代ルベシ

第三十五條

自己ノ名ニ於テ本條約ガ署名セラレザリシ

名セサル諸國ハ其ノ後ニ至リ之ニ加盟スルノ自由ヲ有スヘシ(其ノ加盟ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ通告シ同政府ヨリ更ニ之ヲ各締盟國ニ通知スヘキモノトス)

第三十二條第二項後段及

第三項

(千九百零六年十二月三十一日迄ニ本條約ニ記名セサル諸國ハ其ノ後ニ至リ之ニ加盟スルノ自由ヲ有スヘシ)其ノ加盟ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ通告シ同政府ヨリ更ニ之ヲ各締盟國ニ通知スヘキモノトス

他ノ諸國モ亦同一ノ形式ニ依リ加盟ヲ請求スルヲ得ヘシ但シ其ノ請求ハ瑞西聯邦政府

國ハ何レモ本條約實施ノ日ヨリ其ノ名ニ於テ之ニ加入スルコトヲ得

第三十六條

加入ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ對シ通告セララルベク加入書ガ同國政府ニ到達シタル日ノ後六月ニシテ效力ヲ生ズベシ
瑞西聯邦政府ハ自己ノ名ニ於テ條約ガ署名セラレ又ハ加入ガ通告セラレタル一切ノ國ノ政府ニ右加入ヲ通知スベシ

ニ通告ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過スルモ
締盟國ノ何レヨリモ同政府ヘ異議ヲ申入レ
サルトキニ限り始メテ其ノ效力ヲ生スヘキ
モノトス

第三十三條
各締盟國ハ本條約ヲ廢棄スルノ權能ヲ有ス
其ノ廢棄ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ

通告シタル後一年ヲ經過スルニ非サレハ效
力ヲ生スルコトナシ瑞西聯邦政府ハ右通告
ヲ爾餘ノ締盟國ニ直ニ通知スヘシ
前項ノ廢棄ハ之ヲ通告シタル國ニ對シテノ
ミ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第三十七條
戰爭狀態ハ戰爭開始前又ハ開始後交戰國ニ
依リ寄託セラレタル批准及通告セラレタル
加入ニ對シ直ニ效力ヲ生ゼシムベシ瑞西聯
邦政府ハ戰爭狀態ニ在ル國ヨリ受ケタル批
准又ハ加入ヲ最迅速ナル方法ニ依リ通知ス
ベシ

第三十八條
各締約國ハ本條約ヲ廢棄スルノ權能ヲ有ス
ベシ廢棄ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ

通告シタル後一年ヲ經過スルニ非ザレバ效
力ヲ生ズルコトナカルベシ瑞西聯邦政府ハ
右通告ヲ一切ノ締約國政府ニ通知スベシ
廢棄ハ之ヲ通告シタル國ニ對シテノミ其ノ
效力ヲ生ズベシ
尙右廢棄ハ廢棄國ガ參加セル戰爭中其ノ效
力ヲ生ゼザルベシ此ノ場合ニ於テハ本條約
ハ一年ノ期間滿了後更ニ平和條約締結迄引
續キ其ノ效力ヲ有スベシ

第三十九條
本條約ノ認證謄本ハ瑞西聯邦政府ノ手配ニ
依リ國際聯盟ノ記録ニ寄託セララルベシ同様
ニ瑞西聯邦政府ニ通告セララルベキ批准、加
入及廢棄ハ同政府ニ依リ國際聯盟ニ通知セ

ラルベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ記名調
印スルモノナリ

千九百六年七月六日「ジエネヅ」ニ於テ
本書一通ヲ作り之ヲ瑞西聯邦政府ノ記録ニ
保管シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ
締盟國ニ交付スルモノナリ

右證據トシテ前記全權委員ハ本條約ニ署名
セリ

千九百二十九年七月二十七日「ジエネーヅ」
ニ於テ本書一通ヲ作成ス右一通ハ瑞西聯邦
ノ記録ニ寄託保存セララルベク其ノ認證謄本
ハ會議ニ招請セラレタル一切ノ國ノ政府ニ
交付セララルベシ

B-1403

0195

昭和九年九月

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル
千九百二十九年七月二十七日ノ「ジュネーヴ」條
約説明書

外務省條約局

目次	頁
第一 本條約締結ノ事情、	一
第二 本條約ノ簡單ナル説明及今回改正ノ要點、	三
第一章 傷者及病者（第一條―第五條）、	五
第二章 移動衛生部隊及衛生上ノ固定營造物（第六條―第八條）	九
第三章 人員（第九條―第十三條）、	一一
第四章 建物及材料（第十四條―第十六條）、	一四
第五章 衛生上ノ輸送機關（第十七條―第十八條）、	一七
第六章 特別記章（第十九條―第二十四條）、	二二
第七章 條約ノ適用及執行（第二十五條―第二十七條）、	二六
第八章 濫用及違反ノ禁止（第二十八―第三十條）、	二八
最終規定（第三十一條―第三十九條）、	三一

第一 本條約締結ノ事情

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル條約ハ元治元年（一八六四年）六月五日ノ「ジュネーヴ」條約ヲ以テ嚆矢トス次イテ右條約ハ明治三十九年（一九〇六年）七月六日「ジュネーヴ」ニ於テ調印セラレタル戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル條約ニ依リ改正セラレタリ而シテ帝國ハ右元治元年ノ條約ニハ明治十九年六月五日加入シ明治三十九年ノ條約ニ付テハ同四十一年四月二十三日之ガ批准書ヲ寄託セリ

然ルニ其ノ後文明ノ進歩ト世界大戰ノ經驗トニ鑑ミ右明治三十九年ノ條約ノ缺陷ヲ補ヒ新ナル事項ヲ追加シ以テ本條約ノ根本タル人道的目的ノ達成ヲ容易ナラシムル爲之ヲ更ニ修正スルノ必要認メラレ先ツ大正十年ニ開催セラレタル第十回國際赤十字會議ハ之カ改正案ヲ採擇シタルカ同十二年ニ開催セラレタル第十一回國際赤十字會議ハ前記改正案ヲ基礎トシテ審議ノ上新ナル改正案ヲ採擇シ瑞西聯邦

政府ニ之ヲ移牒シ適當ノ時機ニ本件條約改正ノ爲國際會議開催方ヲ希望セリ依テ瑞西聯邦政府ハ大正十四年先ツ本件ニ關スル國際會議開催方ニ關シ關係各國ノ意嚮ヲ照會シ越エテ昭和三年ニ至リ本件會議ヲ昭和四年六月ニ開催スル旨ヲ關係各國ニ通知シ且前記改正案ニ對スル各國ノ意見及各國ノ希望スル提案ニ付照會スル所アリタリ

斯クテ本件會議ハ昭和四年七月一日ヨリ「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ四十七箇國之ニ參加シ前記第十一回國際赤十字會議ノ採擇セル改正案ヲ討議ノ基礎トシ更ニ各國ヨリ提出セラレタル多數ノ提案ヲ參酌シテ審議ノ結果新ナル條約ヲ作成セリ

我國ハ瑞西國駐劄特命全權公使吉田伊三郎、陸軍中佐下村定及「パリ」駐在日米國大使館附武官海軍中佐三浦省三ヲ代表トシテ會議ニ派遣シ右條約ニ署名セシメタリ是茲ニ御批准ヲ奏請セル條約ナリトス

第三本條約ノ説明及今回改正ノ要點

今回ノ改正ハ前述ノ如ク要スルニ時代ノ進運世界大戦ノ經驗等ニ鑑ミ益々博愛精神ヲ高調シテ戰地軍隊ニ於ケル傷病者及死者ノ保護尊重ヲ一層厚カラシムル目的ヲ以テ從前ノ條約ニ規定セラレサリシ所ヲ補充スルト共ニ從來明瞭ヲ缺キタル規定ヲ一層詳細明確ナラシメ以テ戰地急迫ノ場合ニ處シテ右目的ノ貫徹ヲ圖ラントスルニ在リ其ノ主要ナル改正點左ノ如シ

一 傷病者及死者ノ認識方法、死者ノ埋葬墳墓等ニ付詳細ニ規定セルコト（第四條）

二 衛生事務ヲ援助スル救恤協會ノ建物材料ニ對スル交戦者ノ徵發權行使ニ付條件ヲ定メタルコト（第十六條第三項）

三 後送機關中ニ隊ヲ爲ササル單獨後送車輛ヲ含メタルコト（第十七條）

四 衛生航空機ニ依ル傷病者ノ後送並ニ衛生人員及材料ノ輸送ヲ規定

3

セルコト（第十八條）

一 衛生人員等ノ認識證明書ニ付詳細ニ規定セルコト（第二十一條）

二 赤十字記章使用ノ場合ヲ一層明確ニ定メ以テ之カ濫用ヲ防止セントシタルコト（第二十四條第二項以下）

三 交戦者カ多數アル場合其ノ中ニ本條約ノ非締約國アルモ自余ノ締約國間ニ於テハ本條約ノ適用アルモノトシタルコト（第二十五條）

四 瑞西聯邦ノ紋章保護ノ規定ヲ設ケテ之ヲ商標等トシテ使用スルコトヲ禁セルコト（第二十八條第一項（ロ））

五 本條約ノ違反審査ニ關スル規定ヲ設ケタルコト（第三十條）

六 戰爭狀態ノ發生又ハ繼續ニ基キ本條約ノ批准又ハ之ヘノ加入ハ直ニ效力ヲ生シ又廢棄ハ平和條約締結迄效力ヲ發生セサルモノトシタルコト（第三十七條及第三十八條第三項）

4

今左ニ本條約ノ各章ニ付規定ノ趣旨ヲ略述シツツ主ナル改正ノ諸點ヲ説明スヘシ

第一章 傷者及病者

本章ハ主トシテ戰地軍隊ニ於ケル傷者、病者及死者ノ保護、尊重等其ノ取扱ニ關シ交戦者ノ遵奉スヘキ義務ヲ規定ス而シテ今回改正ノ要點ハ右傷者病者等ノ保護ヲ人道的見地ヨリ一層厚カラシムルト共ニ右取扱ニ關スル規定ヲ一層明確ナラシメタル點ニ在リ（以下傍線ヲ施シタル部分ハ今次改正セラレタルモノ其ノ旨ヲ特ニ本説明中ニ明言セサルモノ又ハ改正ノ旨ヲ特ニ示スコト便宜ト認ムラルル箇所ナリ）

5 (一) 第一條ハ軍人及公ニ軍隊ニ附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ傷者又ハ病者トナリタルモノハ如何ナル場合ニ於テモ尊重保護セラルヘク之ヲ自己ノ權内ニ收容シタル交戦者ハ右傷者又ハ病者ノ國籍ノ如何ニ拘ラス博愛ノ心ヲ以テ之ヲ待遇シ且看護スヘキコト（第一項）已ムヲ得ス傷者及病者ヲ敵ニ遺棄スル場合ハ之カ看護ノ爲軍事上ノ要求ノ許ス限り其ノ衛生人員及衛生材料ヲ之ト共ニ遺留スヘキ

コト（第二項）ヲ規定ス

(二) 第二條ハ交戦者ハ他方ノ軍ノ傷者及病者ヲ其ノ權内ニ收容シタルトキハ之ヲ第一條ニ依リ看護スルコトヲ要スルモ他面右傷者及病者ハ之ニ依リ俘虜トナリ國際法ノ一般原則ヲ適用セラレヘキコト（第一項）尤モ交戦者ハ傷者又ハ病者タル俘虜ノ待遇ニ付現存ノ義務以外ニ其ノ有益ト認ムル條項ヲ定ムルノ自由ヲ有スルコト（第二項）ヲ規定ス尙舊條約ハ右條項ヲ例示的ニ列舉シタルモ新條約ハ不必要ト認メ之ヲ削除セリ

(三) 第三條ハ各戰鬪後戰場ノ占領者ハ傷者及病者ヲ搜索シ且之ヲ保護スルノ措置ヲ執ルヘキコト（第一項）、戰線間ニ殘留スル傷者ノ收容ノ爲事情ノ許ストキハ其ノ都度局地的休戰又ハ射撃中止ヲ協定スヘキコト（第二項）ヲ規定ス

第二項ハ新規定ナリ（舊第二項ハ之ヲ第四條第四項ニ移セリ）

6 (四) 第四條ハ第一項乃至第四項ニ於テ傷者、病者及死者ノ認識ニ關シ

規定シ第五項以下ニ於テ屍体ノ取扱及墓地等ニ關シ規定ス副テ交
 戦者ハ兵ノ收容又ハ發見シタル傷者、病者及死者ノ姓名竝ニ之ヲ
 認識スルニ足ル資料ヲ速ニ相互ニ通知スヘキコト(第一項)、死
 亡證明書ヲ作成シ且交換スヘキコト(第二項)、戰場ニ於テ又ハ
 死者ヨリ發見シタル一切ノ個人用品ヲ認讓票ノ半分ヲ蒐集交
 換スヘキコト(第三項)、死者ノ土葬又ハ火葬ニ先チ死亡ノ確認
 及死者ノ認識ノ爲之カ身体検査ヲ爲スヘキコト(第四項)、埋葬
 ハ敬意ヲ以テシ墳墓ヲ尊敬スヘキコト等(第五項)、墳墓係ヲ公
 ニ組織スヘキコト(第六項)、紛争終了後墳墓表及死者ノ表ヲ交
 換スヘキコト(第七項)等ヲ規定ス

本條ノ改正要點ハ傷者、病者及死者ノ認識ニ關スル從來ノ規定ヲ
 追補スルト共ニ(第一項乃至第四項)死者ノ尊重及發掘ヲ確保ス
 ル目的ヲ以テ埋葬及墓地ニ關シ詳細ナル規定(第五項以下)ヲ設
 ケタル點ナリ

(五)第五條ハ軍事官憲ハ自己ノ監督ノ下ニ傷病者ヲ收容看護セシムル
 爲住民ノ慈惠心ニ訴フルコトヲ得ヘク之ニ應シタル者ニハ特別ノ
 保護及便宜(從來ハ「特典」)ヲ與ヘ得ヘキコトヲ規定ス

本條ニ於ケル改正ハ從來ノ特典ナル語ハ意味曖昧ナルヲ以テ之ヲ
 便宜ナル語ニ變更シタル點ナリ

- ヲ守衛セシムルノ事實
- (3) 傷者及病者ヨリ取上ケ未タ所轄機關ニ引渡ササル携帶武器及彈藥カ部隊又ハ營造物内ニ發見セラレタルノ事實
 - (4) 獸醫機關ノ人員及材料カ部隊又ハ營造物ノ一部ヲ構成セシメテ其ノ内ニ在ルノ事實
- 改正ノ點ハ(4)カ追加セラレタルコトナリ

- 第二章 移動衛生部隊及衛生上ノ固定營造物
- 本章ハ戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ保護及看護ヲ專ラ其ノ任務トスル移動衛生部隊及衛生機關ノ固定營造物ヲ尊重保護スヘキ交戦者ノ義務及右義務免除ノ場合ニ付規定ス
- 本章ニ於テハ従前ノ規定ニ對シ大ナル變更ヲ加ヘラレス
- (一) 第六條ハ交戦者ハ移動衛生部隊及衛生機關ノ固定營造物ヲ尊重保護スヘキコトヲ規定ス
 - (二) 第七條ハ衛生上ノ部隊及營造物カ害敵行為ノ爲ニ使用セララルトキハ第六條ニ依リ保障セラレタル保護ヲ喪フヘキコトヲ規定ス
 - (三) 第八條ハ衛生上ノ部隊及營造物ハ左記ノ事實ニ依リ第六條ニ於テ保障セラレタル保護ヲ喪失スルモノニ非サルコトヲ明カニス
 - (1) 部隊又ハ營造物ノ人員カ武装シ自己又ハ傷者病者ノ防衛ノ爲ニ其ノ武器ヲ使用スルノ事實
 - (2) 武装看護人ノ在ラサル場合歩哨又ハ衛兵ヲシテ部隊又ハ營造物



第三章 人員

本章ハ軍隊ノ常置衛生人員、軍人ニシテ場合ニ依リ衛生事務ヲ遂行スルモノ及交戦國又ハ中立國ノ救恤協會ノ人員ニ對シ交戦者ノ與フベキ保護ニ付規定スル處從前ノ規定ニ比シ保護セラルベキ人員ノ範圍ヲ若干廣クシタル他大ナル變更ナシ

(一) 第九條ハ傷者及病者ノ收容、輸送及治療竝ニ衛生上ノ部隊及營造物ノ事務ニ專ラ從事スル人員竝ニ軍隊附屬ノ敎法者ハ如何ナル場合ニモ尊重保護セラルヘク且敵手ニ陥リタルトキト雖モ俘虜トセララルコトナキ旨ヲ規定シ(第一項)又軍人ニシテ場合ニ依リ傷者及病者ノ收容、輸送及治療ニ使用セララル爲特別ニ敎育セラレ且認識證明書ヲ携帯スルモノハ右職務遂行中ニ捕ヘラレタルトキハ常置衛生人員ト同一ノ取扱ヲ受クベキ旨ノ規定追加セラレタリ(第二項)

尙舊第二項ハ第八條ノ(二)ニ定ムル守衛兵モ捕虜ト爲シ得サル趣旨

ヲ規定シタルモ今回之ヲ削除シ右ノ如キ守衛兵モ捕虜ト爲シ得ルモノトセリ

(二) 第十條ハ交戦國政府カ適法ニ認可シタル篤志救恤協會ノ人員ニシテ第九條第一項ノ人員ト同一ノ職務ニ使用セララルモノハ軍ノ法令ニ服従スルコトヲ條件トシテ該項ニ掲ケタル人員ト同一ニ看做サルヘキコトヲ規定シ(第一項)又各締約國ハ此ノ種協會ノ名稱ヲ平時ヨリ又ハ戰爭開始後何レノ場合ニ於テモ右協會ヲ實際ニ使用スル前ニ他ノ締約國ニ通告スヘキコトヲ規定ス(第二項)

(三) 第十一條ハ中立國ニ於テ認可セラレタル(篤志救恤)協會ガ其ノ人員及衛生部隊ヲシテ交戦者ニ援助ヲ與ヘシムル場合ノ要件ヲ規定シ(第一項)又交戦者カ右協會ノ救護ヲ受クルコトヲ承認シタルトキハ之カ使用ニ先チ敵國ニ通告スヘキ旨ヲ規定ス(第二項)

(四) 第十二條ハ前記第九條、第十條及第十一條ニ掲クル人員カ相手方ノ構内ニ陥リタル場合ニ於ケル之カ取扱ニ付規定ス即チ右人員

ノ抑留禁止（第一項）、送還ノ條件（第二項）、相手方ノ権内ニ在ル期間中ノ職務執行（第三項）及送還ノ際持去ルコトヲ許サルヘキ物品（第四項）等ニ付規定ス

従前ノ規定ニ比シ主ナル改正ハ右人員ノ抑留禁止ヲ明ニセル點及相手方ノ権内ニ在リテ職務執行ノ場合成ルヘク該人員ノ所屬交戦者ノ傷病者ノ治療ニ當ラシムヘキコトトシタル點ナリ

(五) 第十三條ハ交戦者ハ第九條、第十條及第十一條ニ據クル人員カ其ノ権内ニ陥リタルトキハ自國軍ノ對當人員ニ對スルト同一ノ待遇ヲ與フヘキコトヲ規定シ（第一項）之カ爲交戦者ハ各自ノ階級ノ對當關係ニ付開戦後直ニ協定スベキコトヲ新ニ規定セリ（第二項）

第四章 建物及材料

本章ハ各種ノ移動衛生部隊及軍ノ衛生上ノ固定營造物ノ建物及材料又ハ條約上ノ利益ヲ享有スル救恤協會ニ屬スル建物及材料ニ對シ與ヘラルヘキ保護ニ付規定ス而シテ一九〇六年ノ條約ニ於テハ「建物及材料」ナル標題トナリ居リタルモ本條約ニ於テハ「建物及材料」ト改正セラレタリ

(一) 第十四條ハ移動衛生部隊ハ其ノ何タルヲ問ハズ相手方ノ権内ニ陥リタルトキト雖モ其ノ材料、輸送機關及輸送係員ヲ保有スルモノナルコトヲ規定シ（第一項）他面相手方ノ權限アル軍專官憲ハ傷者及病者ノ看護ノ爲右材料等ヲ使用スルノ權能ヲ有スヘク且衛生人員ニ對スルト同一條件（第十二條第二項參照）ノ下ニ之ヲ返還スヘキコトヲ規定ス（第二項）

(二) 第十五條ハ交戦者ハ軍隊ノ衛生上ノ固定營造物ノ建物及材料ヲ戰爭ノ法規ニ從ヒ取扱フヘキコトヲ規定スルト共ニ傷者及病者ノ

爲ニ必要ナル間ハ其ノ用途ヲ他ニ轉シ得ストノ制限ヲ定ム（第一項）更ニ右ノ制限ヲ緩和シテ作戰部隊ノ指揮官ハ緊急ナル（従前ハ「重大ナル」トアリ）軍事上ノ必要アルトキハ右營造物内ニ於テ治療セララルル傷者^{及病者}ノ安全ヲ圖リタル後之ヲ處分シ得ヘキコトヲ規定ス（第二項）

本條改正ノ要點ハ本條カ衛生上ノ固定營造物ニシテ軍ニ屬スルモノノミニ關スルコトヲ明カニシタル點ナリ

(三) 第十六條ハ本條約ノ利益ヲ享有スル救恤協會ノ建物及材料ハ私有財産トシテ取扱ハルヘキコトヲ規定ス（第一項及第二項）交戦者ハ右建物及材料ニ對シ戦争ノ法規慣例ニ基キ徵發權ヲ有スルモ舊條約ト異ナリ今回ハ之カ行使ニ付緊急ナル必要アル場合竝ニ傷者及病者ノ安全ヲ圖リタル後ナル條件ヲ附セラレタリ（第三項）本條改正ノ要點ハ第一項ニ於テ救恤協會ノ材料ノミナラス其ノ建物モ亦私有財産ト看做サルヘキコトヲ明ニシタル點ナリ舊條約ニ

於テハ建物ハ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則（第五十六條）ニ依リ保護ヲ受クルコト當然ナリトシテ規定セザリシモ今回本條約中ニ明文ヲ設ケタリ



第五章 衛生上ノ輸送機關

本章ハ傷者及病者ノ後送、衛生人員及衛生材料ノ輸送ノ爲使用セラ
ルル輸送機關（軍ノ衛生機關ニ屬スルモノノミナラス救恤協會ニ屬
スルモノヲモ含ム）ノ取扱ニ付規定ス本章ニ於ケル改正ノ要點ハ後
送機關ノミナラス衛生人員及材料ノ輸送機關ニ關スル規定ヲ含マシ
メ從テ標題ヲ後送機關ヨリ衛生上ノ輸送機關ニ變更シタルコト、後
送機關中ニ隊ヲ爲ササル單獨後送機關ヲ含マシメタルコト及新ニ航
空機ニ衛生上ノ後送及輸送機關トシテ認メタルコト是ナリ右改正ノ
理由ハ世界大戰ノ經驗ニ鑑ミ近代戰爭ニ於ケル衛生上ノ輸送機關ノ
任務ハ傷者及病者ノ後送ニ限定セラレサルコト、衛生上ノ輸送機關
ハ隊ヲ爲ササル單獨ニ移動スルコト少カラサルニ至レルコト及航空機
ヲ衛生上ノ目的ニ使用シ其ノ效果著シキヲ認ムルニ至リタルコトニ
在リ

17

(一) 第十七條ハ衛生上ノ後送ノ爲裝備セラレ單獨ニ又ハ隊ヲ爲シテ

18

移動スル車輛ノ取扱ニ付規定ス即チ交戰者ハ左記(1)乃至(5)ニ據ケ
タル特別規定ニ依ルノ外右車輛ヲ移動衛生部隊トシテ取扱フヘキ
モノトス（第一項）即チ右車輛カ害敵行爲ノ爲ニ使用セラルル場
合ノ外之ヲ尊重保護スヘキモノトス（第六條第一項及第二項參照）
(1) 單獨ニ又ハ隊ヲ爲セル衛生上ノ輸送車輛ヲ遮斷スル交戰者ハ重
事上ノ必要アルトキハ該車輛内ノ傷者及病者ヲ引取りタル後之
ヲ停止解散スルヲ得ヘク又右遮斷ヲ爲シタル戰區内ニ於テ且衛
生上ノ必要ノ爲ノミニ之ヲ利用スルコトヲ得ヘシ尤モ局地的任
務終了シタルトキハ之ヲ返還スヘキモノトス（第二項）

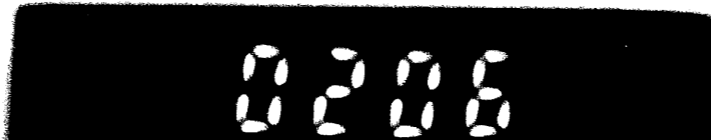
(2) 輸送ニ從事シ且之カ爲ノ正式ノ命令書ヲ携帯スル軍人軍屬ハ衛
生人員ニ付第十二條ニ規定セラレタル條件ニ於テ且第十八條末
項ノ留保ノ下ニ之ヲ返還スヘキモノトス（第三項）

一九〇六年ノ條約ノ對當條項タル第十七條第一項第二ニ對スル
改正ハ後送機關ノ護衛ニ任スル一切ノ軍人軍屬ヲ削除シタルコ

トナリ依テ右人員ハ俘虜トシテ之ヲ取扱ヒ得ルコトナレリ
 右ハ舊條約第九條第二項ヲ削除シタルト同趣旨ナリ
 (3) 後送ノ爲特ニ組織セラレタル輸送機關及其ノ裝置材料ニシテ衛生機關ニ屬スルモノハ第四章ノ規定ニ從ヒ之ヲ返還スヘキモノトス(第四項)

舊條約第十七條第二項ハ鐵道列車等ノ裝置材料モ返還セラルヘキモノナルコトヲ規定シタルヲ新條約ハ之ヲ削除セリ右ハ返還カ一切ノ輸送機關及其ノ材料ニカフコト明瞭ナレハナリ
 4. 軍ノ輸送機關ニシテ衛生機關ニ屬セサルモノハ緊要ト共ニ之ヲ捕獲シ得ヘキモノトス(第五項)即チ假令臨時ニ後送ノ爲使用セラルルモ衛生機關ニ屬セサレバ之ヲ捕獲シ得ルコトヲ明カニセリ
 (5) 後送ニ依リテ得タル普通人及一切ノ輸送機關ニ付テハ國際法ノ一般規則ヲ適用スルモノトス(第六項)例ヘハ斯カル普通人ヲ俘虜ト爲シ得サルカ如シ

(2) 第十八條ハ衛生上ノ輸送機關トシテ使用セラルル航空機ニ關スルモノニシテ本條約ニ於テ新ニ設ケラレタル規定ナリ
 先ツ衛生上ノ輸送機關トシテ使用セラルル航空機ハ專ラ傷者及病者ノ後送、衛生人員及衛生材料ノ輸送ニ充テラルル間本條約ノ保護ヲ享有スヘキコトヲ規定シ(第一項)次ニ右航空機識別ノ爲メ右航空機ハ白色ニ塗ラルヘク且下面及上面ニ國色章ノ傍ニ第十九條ニ規定セラレタル殊別記章ヲ明瞭ニ附セラルヘシト爲シタル後(第二項)航空機ノ自由ナル行動ヲ制限シ作戰上ノ要求ニ反セサラシメンカ爲特別ノ且明白ナル許可アル場合ヲ除キ戰線上及野戰病院ノ前方ニ存スル地帯竝ニ一般ニ敵ノ一切ノ領域又ハ敵ニ依リ占領セラレタル一切ノ地域上ノ飛行ヲ禁止シ(第三項)且航空機ニ對シ著陸ノ要求アル場合ハ常ニ之ニ從フコトヲ要スルモノトセリ(第四項)
 尤モ右ノ如ク著陸命令ヲ受ケ強制的ニ敵ノ領域又ハ敵ニ依リ占領



セラレタル地域ニ於テ著陸ノ場合及偶然ニ右ノ如キ地域ニ著陸スル場合ニハ傷者及病者竝ニ衛生人員及衛生材料（航空機ヲ含ム）ニハ本條約上ノ利益ヲ與フヘキモノトシ（第五項）最後ニ操縦者、運航従事者及無線電信投術者ヲ捕ヘラレタル場合ハ戦争ノ終了スル迄衛生勤務ニノミ使用セララルコトヲ條件トシテ送還セララルヘキ旨ヲ規定ス（末項）

第六章 殊別記章

本章ハ本條約ニ依リ保護尊重セララルヘキ人員、移動部隊、固定營造物及材料ヲ標示スル爲ノ標章及殊別記章竝ニ認識證明書等ニ關シ規定ス而シテ改正ノ要點ハ特定國ニ對シ白地赤十字以外ノ標章ヲ殊別記章トシテ認めタルコト及認識證明書ニ關スル規定ヲ一層詳細ナラシメタルコトノ外平時ニ於ケル右記章使用ノ取締ニ關スル規定ヲ設ケタルニ在リ

(一) 第十九條ハ白地赤十字ノ紋章ヲ軍隊ノ衛生勤務ノ標章及特別記章トシテ維持スヘキコトヲ規定シ（第一項）更ニ特定國ニ對シテハ白地ニ赤新月又ハ赤ノ獅子及太陽ノ紋章ヲ以テ本條約ノ意義ニ於ケル殊別記章トシテ許容スヘキ旨ヲ新ニ規定セリ（第二項）
因ニ白地ニ赤新月ノ記章ヲ使用スルハ「トルコ」、「エジプト」、「イラク」、「外ソ」聯邦ノ一部ニシテ白地ニ赤ノ獅子及太陽ノ記章ヲ使用スルハ「ベルシヤ」ナリ

(二) 第二十條ハ權限アル軍事官憲ノ認許ヲ得テ本件標章ヲ衛生勤務ニ關係アル旗、臂章及一切ノ材料ニ表出スヘキコトヲ規定ス

(三) 第二十一條ハ本條約ニ依リ保護セララル各種衛生人員カ其ノ衛生人員タルコトヲ表示スル爲ノ臂章及衛生員タル身分ヲ證明スル爲ノ認識證明書ニ關シ規定ス第九條第一項ノ專ラ衛生事務ニ從事スル移動衛生部隊及固定營造物ノ人員、教法者並ニ第九條第二項ノ戰鬥員ニシテ臨時ニ補助看護人等トナルモノノ認識證明書ハ特別ノ書類トスルカ又ハ軍隊手帳へ必要ノ事項ヲ記入シタルモノトスル旨ヲ規定シタルコト(第二項)、認識證明書ノ形式ヲ各軍ニ付一定スヘキコトヲ定メタルコト(第四項)、衛生人員ハ其ノ固有ノ徽章又ハ認識證明書ヲ套ハレサルヘキコト(第五項)、及紛失ノ場合複本ヲ請求スル權利ヲ有スルコト(第六項)等ノ新規定ヲ設ケタリ

(四) 第二十二條ハ第一項及第二項ニ於テ衛生上ノ部隊及營造物ノ殊別

旗及自國國旗掲揚等ニ關シ規定シ居レル威奮條約ニ於テハ移動部隊及固定營造物何レモ右二種ノ旗ヲ掲揚スルコトヲ義務的トシタルニ反シ新條約ニ於テハ移動部隊ニ付テハ國旗掲揚ヲ任意的トセリ右ハ作戰ノ必要上國旗ヲ掲ゲサルヲ可トスル場合アルカ爲メナリ次ニ移動部隊カ敵ノ權内ニ陥リタルトキハ殊別旗ノミヲ掲クヘキモノナルコト舊條約ト同シ第三項トシテ交戦者ハ敵ノ一切ノ攻撃ヲ免レシムル目的ヲ以テ右部隊及營造物ヲ表示スル殊別標章ヲ陸上、空中及海上ノ敵軍ニ明瞭ニ認識セシムル爲軍用上ノ要求ノ許ス限り必要ナル措置ヲ講スヘキ旨ノ新規定ヲ設ケタリ

(五) 第二十三條ハ交戦者ニ援助ヲ與フルコトヲ認許セラレタル中立國ノ移動衛生部隊カ本條約ノ殊別旗並ニ所屬交戦者及自國ノ國旗ヲ掲揚スヘキ權利アルコト(第一項及第二項)及該移動部隊カ敵ノ權内ニ陥リタル場合右殊別旗ノミヲ掲揚スヘキコト(第三項)ヲ定ム

改正ノ要點ハ第二項ノ中立國ノ國旗掲揚ノ權利カ認メラレタルコトナリ
 (六) 第二十四條ハ平時ト戰時トヲ間ハス白地ニ赤十字ノ標章及赤十字
 又ハ一ジュネーヴ十字ノ語、白地ニ赤新月又ハ赤ノ獅子及太陽
 ノ標章ハ本條約ニ依リテ保護セララルル衛生上ノ部隊及營造物竝ニ
 人員及材料ヲ保護シ又ハ表示スル爲ニ非サレハ之ヲ使用シ得サル
 コト(第一項及第二項)、篤志救恤協會ハ國內法令ニ從ヒ平時ニ
 於ケル博愛事業ノ爲殊別標章ヲ使用シ得ルコト(第三項)及無料
 救護所ハ特例トシテ當該國ノ赤十字社(又ハ赤新月社等)ノ許可
 ヲ得タルトキニ於テノミ平時ニ於テ本條約ノ標章ヲ使用シ得ルコ
 ト(第四項)ヲ規定ス
 改正ノ要點ハ篤志救恤協會又ハ例外的ニ無料救護所等ハ平時ニ於
 テ本條約ノ標章ヲ使用シ得ルモ之カ爲ニハ國內法ノ規定ニ準據シ
 又ハ一定ノ許可ヲ要スヘキコトヲ明カニシ以テ濫用ヲ防止セント
 シタル點ニ在リ

第七章 條約ノ適用及執行

本章ハ本條約ノ適用及執行ニ關シ規定スル處主要ナル改正ハ交戰者
 中ニ本條約ノ締約國タラサルモノアル場合ニ於ケル條約ノ拘束力ニ
 關シ一九〇六年ノ條約ノ規定ニ對シ重大ナル變更ヲ加ヘタル點ナリ
 (一) 第二十五條ハ先ツ本條約ノ規定ハ如何ナル場合ニ於テモ締約國ニ
 依リ尊重セララルヘキコトヲ規定シ(第一項)次ニ戰時ニ於テ交戰
 者ノ一カ本條約ノ當事國タラサル場合ニ於テモ本條約ニ加盟セル
 交戰者間ニ於テハ拘束力ヲ有スヘキコトヲ規定ス(第二項)是一
 九〇六年ノ條約第二十四條ノ原則ヲ全然顛倒シタルモノナリ
 (二) 第二十六條ハ一九〇六年ノ條約第二十五條ト全然同趣旨ニシテ交
 戰軍ノ總指揮官ハ一定ノ條件ノ下ニ本條約ノ執行ニ關スル細目及
 規定漏ノ事項ヲ補足處理スヘキコトヲ規定ス
 (三) 第二十七條モ一九〇六年ノ條約第二十六條ト全然同趣旨ニシテ締
 約國カ本條約ノ規定ヲ軍隊及保護セララルル人員ニ教示シ且一般人

民ニ知悉セシムル爲ノ措置ヲ執ルヘキコトヲ規定ス

第八章 濫用及違反ノ禁止

本章ハ本條約ノ殊別記章及瑞西聯邦ノ紋章ノ濫用及戰時ニ於ケル條約違反ノ禁止ニ關シ規定ス主要ナル改正ハ瑞西聯邦ノ紋章ノ保護ニ關スル規定(第二十八條第一項(四))竝ニ本條約ノ規定ニ對スル違反ニ關スル審査ニ關スル規定ヲ新ニ設ケタルコトナリ

(一) 第二十八條ハ(イ)赤十字又ハ「ジュネーヴ」十字ノ標章又ハ名稱及之カ模倣トナル標章又ハ名稱ノ濫用及(ロ)瑞西聯邦ノ紋章又ハ之カ模倣トナル記章ノ製造標又ハ商標或ハ其ノ要部トシテノ使用ヲ禁止セントスルモノニシテ締約國政府ハ右禁止ノ爲必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法機關ニ提案スヘキコトヲ規定ス(第一項(イ)ニ「模倣トナル記章及名稱ノ使用」ヲ加ヘタルコト及(ロ)全部カ新規定ナリ

右(イ)及(ロ)ニ規定セララルル禁止ハ各國法令ニ依リ決定セララルル時期ヨリ且運クトモ本條約實施後五年ニシテ效力ヲ生セシメラルヘキ

百ヲ規定ス(第二項)

更ニ本條約實施後ハ右禁止ニ反スル製造標又ハ商標ヲ採用スルコトハ最早適法ナラサル旨ヲ規定ス(第三項)

尙本條第一項(二)ニ規定セラレタル瑞西ノ紋章又ハ之カ模倣ト爲ル記章ノ製造標又ハ商標トシテノ使用禁止ニ關シ帝國ハ右禁止ノ實施期及禁止實施前ニ使用又ハ登録セラレタルコトアルヘキ紋章及記章ノ使用禁止ニ付署名ノ際留保ヲ爲シ右禁止ノ時期ニ付制限ヲ受ケス且我國ニ於テ禁止ヲ實施スルヨリモ以前ニ使用又ハ登録セラレタルコトアルヘキ紋章及記章ニハ右禁止カ及ハサルコトヲ明ニセリ

(二)第二十九條ハ戰時ニ於テ本條約ノ規定ニ反スル一切ノ行爲ヲ禁止スル爲締約國政府ニ於テ必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法機關ニ提案スヘキコトヲ規定シ(第一項)締約國政府ハ右禁止ニ關スル規定ヲ本條約批准後五年以内ニ瑞西聯邦政府ノ仲介ニ依リ相

互ニ通告スヘキコトヲ規定ス(第二項)

本條カ一九〇六年ノ條約ノ對當條文タル第二十八條ト異ル所ハ軍ノ刑法ナル語ヲ單ニ刑法ト改メ且禁止スヘキ行爲ノ内容ヲ具體的ニ記載セザリシコトナリ

(三)第三十條ハ新條文ナリ、條約ニ對スル違反アリトノ主張アルトキハ一交戦者ノ請求ニ應キ關係當事者間ニ定ムヘキ手續ニ從ヒ右違反ニ關シ審査ヲ開始スヘク違反確認セラルルトキハ交戦者ハ成ルヘク速ニ右違反ヲ止メ且之ヲ禁止スヘキコトヲ規定ス

最終規定

本條約ノ署名、批准、加入、廢棄、國際聯盟寄託等ニ關シ規定ス

一九〇六年ノ條約ニ於テハ總則ト稱セシモ本條約ニ於テハ最終規定ト改題セリ改正ノ主要點ハ第三十七條、第三十八條末項及第三十九條ノ新規定ヲ設ケタルコトナリ

(一) 第三十一條ハ本條約ノ署名期間ヲ定ム

(二) 第三十二條ハ批准、批准書寄託及一切ノ締約國ニ對スル批准書寄託調書ノ認證牒本交付ニ關シ規定ス

(三) 第三十三條ハ本條約ノ實施ノ始期及各締約國ニ對スル實施期ニ付規定ス

(四) 第三十四條ハ本條約ノ締約國間ノ關係ニ於テハ本條約カ一八六四年八月二十二日及一九〇六年七月六日ノ條約ニ代ルヘキ旨ヲ規定ス

(五) 第三十五條ハ本條約ニ對スル加入ニ關シ規定ス

(六) 第三十六條ハ各加入ノ效力發生期及一切ノ締約國ニ對スル右加入ノ通知ニ關シ規定ス

尙一九〇六年ノ條約ノ對舊條文タル第三十二條第三項ハ加入ノ請求ニ對シ締約國カ異議ヲ唱ヘ右加入ノ效力ヲ發生セシメサルコトヲ得ル旨ヲ規定シ居タルモ今回ノ條約ニ於テ右條項ハ削除セラレタリ依テ何レノ國モ自由ニ加入シ得ルコトナレリ

(七) 第三十七條ハ新條文ナリ、戰爭狀態ノ發生又ハ存在ニ依リ交戰國ノ批准又ハ加入カ第三十三條及第三十六條ノ期間ヲ待タスシテ直ニ效力ヲ發生スヘキ旨ヲ規定スルモノナリ尙瑞西聯邦政府ハ戰爭狀態ニ在ル諸國ヨリ受ケタル批准又ハ加入ヲ最迅速ナル方法ニ依リ通知スヘキコトヲ規定ス

(八) 第三十八條ハ本條約ノ廢棄ニ關スル規定ナリ各締約國ハ本條約ヲ廢棄スルノ權能ヲ有スルコト、廢棄ハ瑞西政府ヘ書面ニテ通告シタル後一年ニシテ效力ヲ生スルコト及瑞西政府ハ各締約國ニ右通

告ヲ通知スヘキコト（第一項）並ニ廢棄ハ之ヲ通告シタル國ニ對
 シテノミ效力ヲ生スルコト（第二項）ヲ規定シタル後廢棄國カ參
 加セル戰爭中ハ同國ノ廢棄ハ其ノ效力ヲ生セサルヘク右ノ場合ニ
 於テハ假令廢棄後一年ヲ經過スルモ本條約ハ平和條約ノ締結迄引
 續キ效力ヲ有スヘキ旨ノ新規定（第三項）ヲ設ケタリ右ハ前記第
 三十七條ニ對應スルモノナリ

(六) 第三十九條ハ新條文ニシテ瑞西聯邦政府カ本條約ノ認證牒本ヲ國
 際聯盟ノ記録ヘ寄託スヘク又批准、加入及廢棄ヲ同シク國際聯盟
 へ通知スヘキコトヲ規定スルモノナリ